

「子どもの居場所とパーソナルサポート事業」 報告書

平成 31 年（2019 年）3 月

はじめに

私たちは、千葉県東金市で「本人の思いや願いを受け止め、生きる力を地域で支える」を基本理念とし、子どもやお年寄り、障がい者など、地域に住む誰もが住み慣れた家や地域で、これまでの人間関係や生活を維持・継続しながら、自分らしく暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、活動を行ってまいりました。

15 年間の活動を通じて実感することは、様々な社会保障・社会福祉制度が整備されながらも、公的なサービスや社会保障制度からこぼれ落ちてしまう人たち、貧困等の連鎖を断ち切れず、「生きづらさ」抱えながら暮らし続ける人たちがいることです。また、こうした状況に陥りかねない環境が、常に私たちの暮らしと隣りあわせにあり、さらにその影響が子ども達にもおよんでいることです。

そこで私たちは、平成 29 年度に、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮の状態にある世帯の子どもの「居場所・学習の場づくり」「個別的な学習支援」「社会・生活等体験学習」等を実施する拠点「学び舎・ゆーすぽーと」を開設しました。そして、そこでの支援と共に、東金市や東金市教育委員会等の協力を得ながら子どもと保護者に対し、アンケート調査を行い生活実態の把握と啓発を行い、子ども達への支援の糸口を見出すことができました。

2 年目となる今年度（平成 30 年度）も、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の支援（助成）を頂き、困窮世帯の子どものみならず、様々な困難を抱える家庭の子どもと保護者への支援を行いました。地域に密着した支援をより進めるために、介護保険法に基づく事業である小規模多機能型居宅介護事業所を拠点に、共生型サービスの仕組みを活用した子どもと保護者への支援及び関係機関等との連携・協働にも取り組みました。

今回の事業を通じて改めて確信したことは、地域の多様な人達が、地域の子どものに関心を持ちしっかりと関わることの重要性和「学び舎・ゆーすぽーと」のような専門職による多機能な拠点の整備が不可欠であるということです。今後も実践を更に重ね、その重要性を啓発してまいりたいと考えております。

最後に、今年度も助成いただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめとし、東金市（社会福祉課・子ども課を主とした関係各課）、東金市教育委員会、東金市内の学校関係者、東金市社会福祉協議会、山武ボランティア協会、地域のボランティア等多くの地域の皆さまの多大な協力により本事業を実施・運営することができましたことに深く感謝申し上げます。

ここに事業の成果をご報告するとともに、今後も「学び舎・ゆーすぽーと」の活動にご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

代表理事 宮 下 裕 一

「子どもの居場所とパーソナルサポート事業」報告書

目 次

序章 事業背景・概要	1
第1章 事業内容・実績	11
1. 居場所（語り場・学習習慣支援・食事）の運営	
2. 社会体験学習・生活訓練	
3. ボランティア・サポーター養成	
4. 子ども支援コーディネーターの設置	
5. ミニシンポジウム・中間報告会	
6. 報告書の作成	
第2章 事業評価	39
1. 子ども・保護者の評価	
2. 報告会等の評価	
3. 今後に向けた課題	
第3章 新たなニーズ	67
終章 まとめ	71
参考資料	75

序章 事業背景・概要

1. 事業の背景・目的

当法人は、独立行政法人福祉医療機構の平成 29 年度社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮状態にある子どもを中心に「学習支援、社会体験、居場所づくり、子どもの生活実態調査」などの事業を実施した。

当時、登録者は 25 名、よく利用する登録者は 19 名、週 4 日営業の 1 日あたりの平均利用数は 8.5 名である。延べ利用人数は、1,296 名である。登録中の子ども達は、東金市や学校、関係機関からの紹介と連携支援を基本に紹介されている。関係機関からは、「さらに受入をお願いしたい」というような要望もあると共に、関わりが必要な子どもの潜在的ニーズはさらに多いと感じているところである。ただ、子どもの人数とその支援の人数のバランスを保たないと、必要な関わりや支援が出来なくなってしまうため、現状の数が一定の上限となってしまう現状である。

一方、事業を実施して、子ども達の背景に見えてきたことは、家庭の経済的な困窮のみならず、ネグレクトをはじめとした児童虐待のケースや障がいや病気で十分に子育てができない親と家庭内の状況である。

実際、東金市を管轄する東上総児童相談所内の虐待件数をみると、東金市は、県内上位となる 2 位を常にキープしている状況である。当然、要対協（要保護児童対策地域協議会）で扱う件数も多く、非公開情報のため、実際の数字は不明であるが、東金市担当課（子ども課）の話よれば、前年度比の 1.5 倍増加という状況である。この状況から、子育て環境が十分に整わない家庭や親を持つ子どもの居場所や相談の場づくりも必要である。

一方で、こうした状況を東金市としても対応していきたいと考えているが、財政難であると同時に人材の配置が厳しく、また、個別性の高い支援であるために、対応が難しい状況である。また、東金市内の民間レベルの団体でも、内容がデリケートなうえに、今日の家庭が抱える多様化した問題や子育て困難な状況を理解し、子どもの支援に関わるノウハウがある団体がないのが現状である。

そのため当法人としては、2 年目となる今年度（平成 30 年度）も、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業の支援（助成）を頂き、困窮世帯の子どものみならず、様々な困難を抱える家庭の子どもと保護者を包括的にサポートする仕組みづくりを目的に実施した。

2. 事業概要

1. 居場所（語り場・学習習慣支援・食事）の運営

1) 本体拠点

東金市街中心部（東金市東新宿）にある普通の一軒家を賃貸し拠点とする。

①拠点名称「学び舎・ゆーすぽと」

②開設日数 概ね週 4 日間、月に原則 16 日活動 ※祝日も活動

③開設曜日 月曜日・水曜日・木曜日・土曜日

④開設時間 平 日：15:00～19:00

土曜・祝日：①14:00～18:00 と②9:00～13:00 の 2 パターンで実施

※社会体験活動時や受験講座実施の際は⑧パターン

長期休業中： 9:00～13:00 （※夏休み・冬休み・春休み）

⑤登録者 31 名（19 世帯）

⑥活動内容 活動日のパターン（平日例）

15:00 オープン。学校から家庭にいったん帰宅し、それぞれ時間差で通所。
出席簿に名前と来た時間を記入

15:00～18:00 宿題、持ち込みの問題集、備え付けの問題集、読書などそれぞれ自主的に取り組む。おしゃべり、トランプゲームなど多様。社会体験活動もこの時間帯

18:00～18:30 全員そろって夕食

18:30～18:55 夕食の片付けや学習室の清掃、戸締りなどの活動

18:55～19:00 当日行った内容の記録や感想の記入

19:00 出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入し解散

2) サテライト拠点

①通 称 「ふくおか・サテライト」

②開設日数 概ね週 2 ～ 3 日間

③開設曜日 水曜日・金曜日・土曜日（月 2 回）

④開設時間 平 日：15:00～18:00

土曜・祝日：9:30～13:00

長期休業中：8:30～13:00 （※夏休み・冬休み・春休み）

⑤登録者 3 人（1 世帯）

⑥活動内容 活動日のパターン（平日例）

15:00 オープン。学校から直接通所。出席簿に名前と来た時間を記入

15:15～17:30 宿題を済ませてから、自由時間。カードゲームや外遊び等

17:30～18:00 ふくおかの家の方も一緒に、全員で夕食。食後、食器洗い片付け

18:00 出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入解散

2. 社会体験学習・生活訓練

多様な社会体験や協働作業の体験の機会を得ることにより、生活力やコミュニケーション力等の向上が期待できるため実施。その他、日々の中で、子ども達が家に帰ってからでもできると、将来の個々の生活を見据えた、生活習慣体験を織り交ぜ実施した。

1) 本体拠点

NO	体験名	活動日	曜日等	場所	参加数
1	いちご狩り	5/19	土	道の駅	5人
2	夕食づくり体験	6/16	土	ゆーすぽーと	8人
3	農業体験教室	6/25	月	ゆーすぽーと	7人
4	モンゴルでの生活の語り	6/28	木	ゆーすぽーと	6人
5	ポスター指導	7/23	夏休み	ゆーすぽーと	6人
6	ブルーベリー狩り体験	7/26	夏休み	市内・松之郷	9人
7	読書感想文・作文指導	8/4	夏休み	ゆーすぽーと	6人
8	ポスター指導	8/11	夏休み	ゆーすぽーと	5人
9	木工教室	8/16	夏休み	ゆーすぽーと	10人
10	笑いヨガ教室	8/18	夏休み	ゆーすぽーと	11人
11	クラフト教室	8/23	夏休み	ゆーすぽーと	9人
12	オカリナ絵付け体験	8/29	夏休み	ゆーすぽーと	12人
13	栗拾い体験	9/15	土	市内・松之郷	3人
14	染物教室	9/17	月・祝	ゆーすぽーと	6人
15	アレンジピザづくり	10/8	月・祝	ゆーすぽーと	9人
16	パソコン教室	10/13	土	千葉学芸高校	11人
17	茶道教室	10/27	土	千葉学芸高校	7人
18	収穫体験（さつま芋、落花生）	11/3	土・祝	大網・金谷郷	6人
19	収穫体験（柿）	11/3	土・祝	大網・長国	6人
20	プリンづくり、礼法教室	12/8	土	ゆーすぽーと	10人
21	リースづくり	12/8	土	ゆーすぽーと	10人
22	餅つき体験	12/26	冬休み	ゆーすぽーと	10人
23	恵方巻づくり	2/2	土	ゆーすぽーと	9人
24	アンサンブル演奏会	2/16	土	大里総合管理（株）	12人
25	自炊体験	3/9	土	中央公民館	7人
26	自分たちで夕食づくり	3/16	土	ゆーすぽーと	6人
27	ホテルでランチ体験	3/27	春休み	成田空港、ホテル	16人

2) サテライト

No	体 験 名	日程	曜日	会場	参加数
1	書道教室	11/14	水	ふくおかの家	3人(地域 6人)
2	ヨガ教室	11/28	水	ふくおかの家	2人(地域 17人)
3	書道教室	12/12	水	ふくおかの家	2人(地域 6人)
4	ヨガ教室	12/15	土	ふくおかの家	1人(地域 11人)
5	書初め教室	1/4	金	ふくおかの家	2人(地域 1人)
6	ヒップホップ教室	1/19	土	おひさま文庫	7人(地域 14人)
7	書道教室	1/23	水	ふくおかの家	3人(地域 7人)

8	ヨガ教室	1/26	土	おひさま文庫	0人(地域 10人)
9	書道教室	2/13	水	ふくおかの家	3人(地域 6人)
10	ヨガ教室	2/23	土	ふくおかの家	2人(地域 13人)
11	ヨガ教室	3/ 9	土	ふくおかの家	2人(地域 7人)
12	ヒップホップ教室	3/30	土	ふくおかの家	2人(地域 6人)

※体験は、それぞれで企画しているが、送迎して相互交流をしている。

サテライトの体験は、親子教室と称して地域の人たちにも参加を呼び掛けている。

3) その他の日常活動の体験

社会体験活動のような特別活動以外にもゆーすぽーとには下記のような日常生活上のたくさんの活動があり、子どもたちは積極的・意欲的に取り組んでいる。そして、子どもたちがこの日常の活動からたくさんのことを学び、成長できるように考え、大切なものとして位置付けている。ゆーすぽーとにはたくさんの来訪者があるが、スタッフが不在の際にも丁寧に対応する子ども達の姿が幾度となく報告されている。

- ・ 毎日の食後の片付けや食器洗い
- ・ 活動後の学習室やトイレの清掃
- ・ 布巾やタオルの洗濯
- ・ 洗濯物の取り込みとたたみ
- ・ 雨戸の戸締り
- ・ 節目の大掃除
- ・ 庭の草取り
- ・ 草花や農業体験で植えたプランターの水やりや収穫
- ・ 調理の手伝い
- ・ 来訪者への対応

3. ボランティア・サポーター養成

困難を抱える子どもや家庭の理解を進めると共に、具体的な支援にあたる人材の確保を目的にボランティアとサポーター養成を行った。

1) 「高校生のためのボランティア体験講座」プログラムの受入れ

さわやかちば県民プラザが実施している、高校生を対象としたボランティア体験プログラムを通じて、2名の高校生が、2日間にわたり活動した。プログラム終了後も継続的にボランティアに來ている。活動の感想を報告会でも発表した。

2) ボランティア講座

開催日時：平成30年11月30日（金） 9:30～11:00

場 所：城西国際大学・講義室

参加者数：24名

- 内 容：①法人の取り組みと子どもの課題について講話
 ②学び舎・ゆうすぽーとの取り組み
 ③質疑応答

3) ボランティア・サポーター交流会

開催日時：平成30年11月21日（水） 18:00～20:00

場 所：学び舎・ゆうすぽーと

参加者数：38名

内 容：様々なカタチで運営に参画頂いているボランティア同士の顔合わせ、関係づくり
 の場

4) ボランティアの受入れ数

ボランティアの種類	参加者数	延べ参加者数
学習支援ボランティア	16人	75人
調理ボランティア	25人	127人
物品提供ボランティア	76人	191人
合計	117人	393人

4. 子ども支援コーディネーターの設置

困難な状況に置かれている子どもを関係機関と共に支えるため、子ども支援コーディネーターを設置し、関係機関と連携し、包括的な相談支援を実施した。

1) コーディネーター

活動場所	役 割	氏 名	資格・経験
本体 (6人)	主任コーディネーター	藤田 実	教員、生活困窮者自立支援事業・相談員
	コーディネーター	福島 邦英	教員
	コーディネーター	篠崎 健一	教員、生活困窮者自立支援事業・相談員
	コーディネーター	四之宮 学	教員
	コーディネーター	上江 美保	教員、家庭教育相談員
	コーディネーター	澤本 良昭	教員
サテライト (2人)	コーディネーター	鈴木 孝雄	
	コーディネーター	安井 瑞江	保育士

※ コーディネーターの補助メンバー 川島悠季、鈴木麻菜美

2) 相談支援の状況

(1) 相談内容

- ・高校進学等進路に関すること
- ・経済的困窮に関すること
- ・学校生活のこと
- ・不登校のこと

- ・家族間の虐待に関すること
- ・その他、暮らし全般のこと

(2) 相談方法

- ・対面での面談
- ・電話での相談
- ・送迎時の相談（3世帯は意識して必ず会話を心掛けた）

（※相談などを意識していない、低学年の子どもたちの会話の傾聴ときめ細かな行動観察を心掛けた。）

(3) 相談数

保護者・・・12人 延べ23回以上
子ども・・・面談では12人 延べ34回以上

5. ミニシンポジウム・中間報告会

1) 中間報告会

開催日時：平成30年11月21日（水） 13:30～15:30

場 所：東金市ふれあいセンター・和室

参加者数：30名

内 容：①基調講演「子どもを取り巻く問題や課題」

松戸市役所総合政策部（兼）子ども部（兼）教育委員会学校教育部

審議会 胡内 敦司 氏

②「学び舎・ゆーすぽーと」中間報告

③ディスカッション（会場の皆さんと）

2) 事業報告会

開催日時：平成31年3月6日 13:20～15:30

場 所：東金市文化会館2階・会議室2

参加者数：77名

内 容：①基調講演「貧困・虐待・孤立から子どもを守るために…私たちができること」

講師：湯浅 誠 氏（社会活動家、法政大学教授）

②「学び舎・ゆーすぽーとの活動報告」

③質疑応答

6. 報告書の作成

本事業の報告書を 200 部作成し、東金市・東金市教育委員会等行政機関及び東金市内の小中学校、登録ボランティア、寄付・寄贈者、市内・山武郡内のボランティア・市民活動関係者、介護・障がい福祉サービス事業所へ配布した。

7. 事業運営と広報

1) 運営委員会

この事業をより効果的に実施するため、平成 29 年度より協力いただいている機関・団体を中心に運営委員会を組織し取り組んだ。

(メンバー)

No.	所属・団体名	氏名
1	学び舎・ゆーすぽーと	藤田 実
2	学び舎・ゆーすぽーと	福島 邦英
3	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト	安井 瑞江
4	学び舎・ゆーすぽーと・サテライト	鈴木 孝雄
5	小規模多機能ホーム ふくおかの家	黒田 和成／佐々木亮一／村上 勝年
6	山武ボランティア協会	土肥 豊
7	東金市社会福祉課	小倉 功照
8	東金市社会福祉課	鵜澤 一匡
9	東金市社会福祉課	石田 直人
10	東金市子ども課	大杉 尚徳
11	東金市教育委員会	花澤 公威
12	東金市社会福祉協議会	北田 兼久
13	アグリライフ東金	伊藤 睦子
14	アグリライフ東金	土肥 恵子

[事務局（3名）]

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎 事務局長 太齋 寛
総合施設長 齊藤 操
総務企画課 川島 悠季

<第1回運営会議>

開催日時：平成 30 年 8 月 30 日 13:00～14:00

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：14 名

議 題：a. 学び舎・ゆーすぽーと活動状況報告

b. ゆーすぽーとサテライト活動状況報告

c. 平成 30 年度社会福祉振興助成事業の助成金について

<第2回運営会議>

開催日時：平成30年10月3日 13:00～14:00

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：14名

議 題：a. 前期の活動状況報告
b. 後期の活動計画
c. 次年度以降を見据えた支援の仕組み・財源等

<第3回運営会議>

開催日時：平成30年12月17日 13:00～14:00

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：15名

議 題：a. 各拠点の活動状況報告
b. 実施事業報告
(中間報告会、ボランティア講座)

<第4回運営会議>

開催日時：平成31年3月20日 13:00～14:00

場 所：学び舎・ゆーすぽーと内

出席人数：11名

議 題：a. 今年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動のまとめ
b. 来年度「学び舎・ゆーすぽーと」活動計画

2) 外部機関・団体での啓発活動

①研修会等での広報・取り組み紹介

- ・平成30年5月18日 九十九里町家庭教育学級全体会で講演 30名ほど参加
「学習支援と子ども食堂の運営を通して感じたこと」
- ・平成30年7月12日 山武・長生地区社会・家庭教育指導員連絡会の会場提供ゆーすぽーとの事業説明 8名参加
- ・平成31年2月9日 大網白里市の大里総合ホールで開催された公演会の前座でゆーすぽーとの活動について紹介(40分)。30人程度参加

②関係機関や商店などにボランティア募集チラシ掲示

③関係機関の訪問と説明

- ・年2回市内13校と関係機関を訪問して、ゆーすぽーとの活動についての報告を行い、協力を依頼した。
- ・年2回の報告会の度に郡市内6教育委員会を訪問し、ゆーすぽーとの活動と報告会を周知をした。

第 1 章 事業内容・実績

1. 居場所（語り場・学習習慣支援・食事）の運営

困難な状況を抱える子どもに、家庭的な雰囲気の中で、話せる場や学習習慣を身に着ける支援、バランスのとれた食事を包括的に提供することを目的に拠点を運営する。

また、当初は、困難な状況を抱える子どもの発見と中心部外の地区の子ども達への支援を強化することを目的に出前の居場所づくりを行う予定であったが、昨今の人材不足等の事情から実施が困難となった。

一方で、中心部から離れた地域での支援ニーズが発生したため、自法人内の地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護事業所）と連携・協働という形で、サテライト拠点を設置し支援を行った。

1) 拠点の概要

(1) 本体拠点

東金市街中心部（東金市東新宿）にある普通の一軒家を賃貸し拠点とする。

①拠点名称「学び舎・ゆーすぽーと」（東金市東新宿 12-25）

②開設日数 概ね週 4 日間、月に原則 16 日活動 ※祝日も活動

③開設曜日 月曜日・水曜日・木曜日・土曜日

④開設時間 平 日：15:00～19:00

土曜・祝日：①14:00～18:00 と②9:00～13:00 の 2 パターンで実施

※社会体験活動時や受験講座実施の際は②パターン

長期休業中：9:00～13:00 （※夏休み・冬休み・春休み）

(2) サテライト拠点

①通 称 「ふくおか・サテライト」（東金市東中島 297）

②開設日数 概ね週 2～3 日間

③開設曜日 水曜日・金曜日・土曜日（月 2 回）

④開設時間 平 日：15:00～18:00

土曜・祝日：9:30～13:00

長期休業中：8:30～13:00 （※夏休み・冬休み・春休み）



▲学び舎・ゆーすぽーと



▲ふくおか・サテライト

2) 対象者及び利用方法

(1) 対象者

①生活困窮家庭の子ども

②虐待など家庭で困難な状況を抱える子ども

上記要件のいずれかを満たす小学生・中学生・高校生。

※高校生は、中学生の時ゆーすぽーとに登録していた子を原則とするが、相談にも応じる。

(2) 利用方法

行政機関・教育機関・各種相談機関などからのつながりを基本とする。

(3) 料金等

利用に伴う料金及び食事・体験などの実費負担はなし。

3) 開設時期

①学び舎・ゆーすぽーと 平成 29 年 6 月

②ふくおか・サテライト 平成 30 年 8 月

4) 支援体制及び活動計画

<学び舎・ゆーすぽーと>

(1) 支援体制

①子ども支援コーディネーター

(非常勤職員 6 人でシフトして、一日 3 人以上で支援。人数不足でシフトが組めない場合は、法人職員の応援を得る) 教職・相談職および福祉職などの経験者

②ボランティア (学習支援や話し相手のボランティア、調理ボランティア)

現職・元職の教員、福祉関係者、主婦、大学生、高校生、社会人

(2) 活動計画

①活動日 月・水・木・土に活動 月に原則 16 日活動 ※祝日も活動

②活動時間 平日・・・15:00～19:00

土曜日・祝日・・・A:14:00～18:00 と B:9:00～13:00 の二つのパターンで活動。社会体験活動時や受験講座実施の際は B パターン

長期休業中・・・9:00～13:00

(3) 活動日のパターン (平日例)

15:00 オープン。学校から直接、家庭にいったん帰宅してから、それぞれ時間差で通所。出席簿に名前と来た時間を記入

15:00～18:00 宿題、持ち込みの問題集、備え付けの問題集、読書などそれぞれ自主的に取り組む。おしゃべり、トランプゲームなど多様。社会体験活動もこの時間帯

18:00～18:30 全員そろって夕食
 18:30～18:55 夕食の片付けや学習室の清掃、戸締りなどの活動
 18:55～19:00 当日行った内容の記録や感想の記入
 19:00 出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入
 解散

<ふくおかサテライト>

(1)支援体制 コーディネーター（非常勤職員 2 人） 福祉職経験者

(2)活動計画

①活動日 水・金・土（土は月 2 回）に活動、週 2 ～ 3 日活動
 ②活動時間 平日・・・ 15:00～18:00
 土曜日・祝日・・・9:30～13:00
 長期休業中・・・8:30～13:00

(3)活動日のパターン（平日例）

15:00 オープン。学校から直接通所。出席簿に名前と来た時間を記入
 15:15～17:30 宿題を済ませてから、自由時間。カードゲームや外遊び等
 17:30～18:00 ふくおかの家の方も一緒に、全員で夕食。食後、食器洗い片付け
 18:00 出席簿に帰りの時間と食事の有無を記入
 解散

5）実施状況

(1)登録者の状況

①登録者数・・・31 人 （ゆーすぽーと 28 人、サテライト 3 人）
 ②登録者の世帯数・・・20 世帯 （ゆーすぽーと 19 世帯、サテライト 1 世帯）

(2)校種・性別登録人数

校 種	人数	男子人数	女子人数
小学生	13	2	11
中学生	13	4	9
高校生	5	3	2
計	31	9	22

(3) 学校別登録者数

番号	学校名	人数	番号	学校名	人数
①	東小学校	2	①	東金中学校	7
②	鵠嶺小学校	2	②	東中学校	0
③	城西小学校	2	③	西中学校	5
④	丘山小学校	0	④	北中学校	0
⑤	正気小学校	0	⑤	成東東中学校	1
⑥	豊成小学校	1	①	大網高校	1
⑦	福岡小学校	3	②	東金商業高校	1
⑧	源小学校	0	③	九十九里高校	1
⑨	日吉台小学校	1	④	東金高校・定時制	1
⑩	九十九里小学校	2	⑤	東金特別支援学校高等部	1

※九十九里小学校、成東東中学校は市外

(4) 登録者の紹介・連携先

番号	紹介・連携先	人数	備考
①	東金市内・市外小・中学校	4	高校も対象
②	東金市 子ども課	12	母子・父子自立支援員等
③	サポートセンター こころん	2	自立相談支援事業
④	東金市家庭教育相談室	7	教育委員会管轄
⑤	ハートフルさんぶ・東金教室	3	適応指導教室
⑥	ゆーすぽーと	3	兄弟関係で直接相談

※紹介・連携先の重複あり

(5) 登録者の通学状況

長期欠席者数 11人 35%

(内訳：小学校6人、中学校4人(内全欠状態2人)、高校生1人)

(6) 登録者の家庭の世帯構成状況

世帯構成種類		世帯数	人数
一人親世帯	母親	14	20
	父親	2	4
夫婦世帯		4	7
計		20	31

※一人親世帯の割合が圧倒的に多く、なかでも母子家庭は全世帯の70%を占めている。

(7) 登録者の家庭の経済状況

経済状況	世帯数	人数
生活保護世帯	6	11
準要保護世帯	9	13
公的扶助のない世帯	5	7

公的扶助を受けていない世帯の中には、ある程度の世帯収入がありながら、高額
の負債を抱えていたり、家計管理ができなかったりで、扶助対象の世帯より厳しい経済
状況にある世帯が複数ある。

(8) 登録者の被虐待状況

31 人の登録者中 16 人が、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待のいずれか、または複合的
にうけていると推察される。およそ 52%

(9) 年間延べ利用者数と平均利用数及び活動日数

年間延べ利用者数		1,481 人	平均利用者数	活動日数
内訳	ゆーすぽーと	1,301 人	7 人/回	190 日
	サテライト	180 人	2 人/回	70 日
	小学生	890 人		
	中学生	566 人		
	高校生	25 人		

(10) 月別延べ利用者数及び月別活動日数

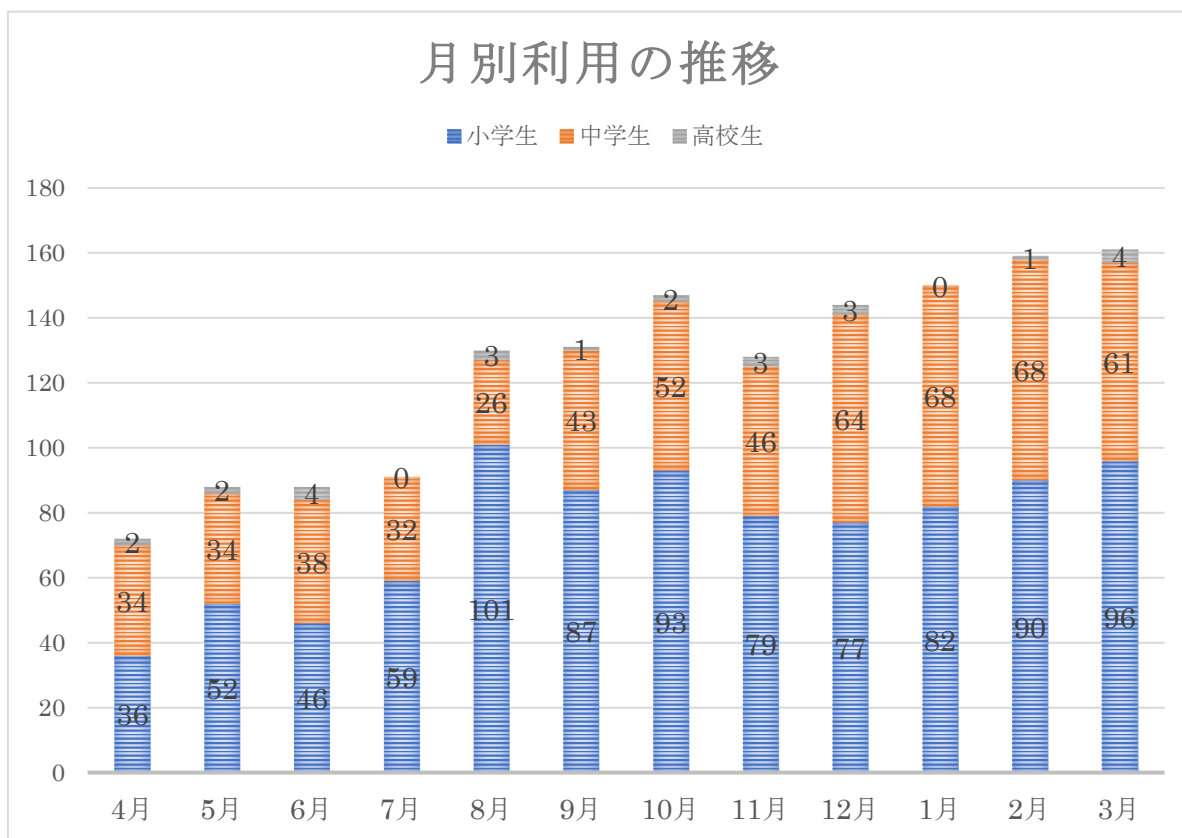
(人・日)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
小学	36	52	46	59	80	66	69	56	58	58	63	67	710
中学	34	34	38	32	26	43	52	46	64	68	68	61	566
高校	2	2	4	0	3	1	2	3	3	0	1	4	25
S	—	—	—	—	21	21	24	23	19	24	27	29	180
計	72	88	88	91	130	131	147	128	144	150	159	161	1481
ゆ日	16	16	16	16	14	16	16	16	17	16	17	14	190
S 日	—	—	—	—	7	8	9	9	8	10	9	10	70

※S：サテライト ゆ日：ゆーすぽーと活動日数 S日：サテライト活動日数

ゆーすぽーとは月 16 回の活動日を目指したが、8 月は台風の為 2 日減。12 月・2 月は受験
対策でそれぞれ 1 日増。3 月は年度末のため 2 日減。

図 月別延べ利用者の推移



※グラフの小学生の延べ利用数は、ゆーすぽーととサテライトの合算数

(11) 一開設日の最大・最小利用者数

最大利用者数 17 人

最小利用者数 1 人

(12) 高校生が利用した理由

部活動、アルバイトなどで忙しくして日常的に利用している子はないが、月平均 2 人が利用している。その理由は下記のようなものである。

- ・ 高校生活上の相談
- ・ 進路変更の相談
- ・ 親と意見の対立の相談
- ・ 所属する部活動の演奏会の協賛依頼
- ・ 定期テストや通知表などの成績を見せに来る
- ・ 近況報告
- ・ 夕食を食べにふらっと立ち寄った

(13)登録後利用を中断している理由

登録後に長期に利用を中断している子が7人いるが、その理由は下記の通りである。
現在、復帰を目指して面談を重ねている子もいる。

- ・児童相談所への保護
- ・家庭環境の変化により送迎が不可能になった
- ・引きこもり状態になった
- ・利用者間のトラブルで通いづらくなった
- ・進路変更により学習支援が不要になった

(14)利用者の通所方法

小学生は親の送迎が原則。車や自転車の伴走、徒歩等で送迎している。高学年の場合は、日中の場合一人の通所を許可しているので、朝からの活動日は自転車で通所している子もいる。

中学生は単独での通所を認めているので、全員が自転車で通所している。市外からの子は、親の車での送迎や電車で通所している。

車を所有していない家庭が多いため、雨天の日の出席が極端に少なくなる傾向がある。

6) 支援体制

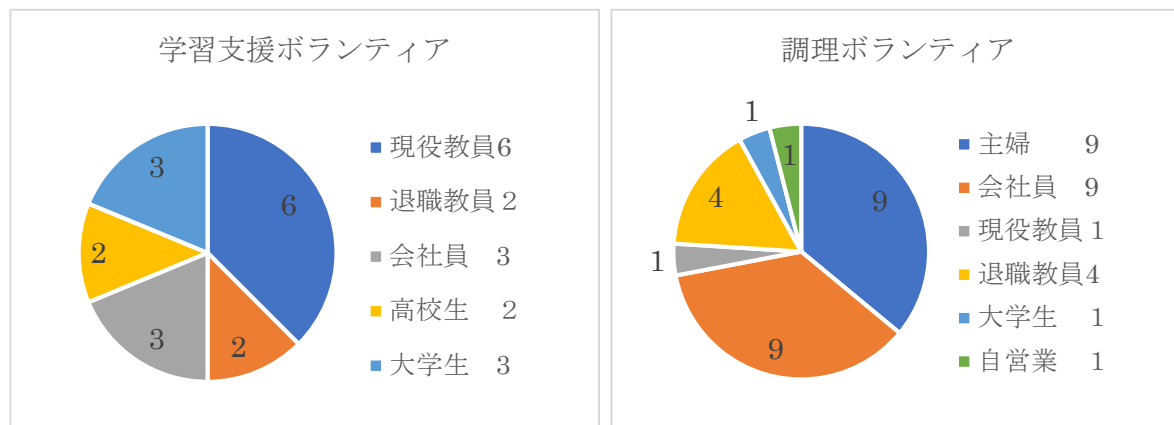
(1)子ども支援コーディネーター

- ①学び舎・ゆーすぽーと コーディネーター6名 (※非常勤)
- ②ふくおか・サテライト コーディネーター2名 (※非常勤)

(2)ボランティア

ボランティアの種類	参加者数	延べ参加者数
学習支援ボランティア	16 人	75 人
調理ボランティア	25 人	127 人
物品提供ボランティア	76 人	191 人
合計	117 人	393 人

(図 参加者の校種・職種等)



7) 学習支援の状況

(1) 学習の習慣づくり

通所してきた子どもたちには、最初に今日やることの確認をして、それぞれに課題を設定させる。学習支援の場がない環境でも自分で学習に取り組めるように課題を与えず、自ら選択させることを意識している。部活動などで遅い時間に参加してくる子もいるが、必ず机に向かわせてから夕食にしている。

(2) 宿題の支援

ゆーすぽーとに通所する子の35%は長期欠席者である。家庭環境や学力が低いことなどが要因になっているが、学校で出された宿題ができずに気後れして、それがきっかけになって登校を渋る子もいる。特に長期休業中の宿題が負担となって、休業あけに長期欠席に陥る大きな要因となっている現状がある。各地でその支援活動が行われているが、ゆーすぽーと利用の子どもたちも同様であり、特に困難と感じている宿題が、ポスターなどの絵画作品と作文・読書感想文である。

そこで、長年それらの教科を専門にしていた教職OBや現役教師にお願いして指導していただいている。時期は子どもたちの気持ちを解放するために長期休業日の初期に設定するようにしている。

(3) 調べ学習の支援

教えられることに依存しないように、子どもたちの質問には即答せず、辞書や参考書を与えている。初期段階ではコーディネーター側で適切な辞書・参考書を与えその利用方法を教えているが、徐々に自分で必要な辞書や参考書を探させるようにしている。時には備え付けのパソコンやタブレットも使用させている。また、生物の観察、空港の見学など実物・実験も重視している。

(4) 個の学力に応じた支援

長期欠席者は、学年や単元の学習内容がすっぽり抜けている。「私、休んでいたからわからない」と誰の前でもあっけらかんとして学習に取り組む子もいるが、ほとんどの子は下の学年の学習をしていることを隠したがる。そうした子どもたちへの個別の支援体制に配慮している。また、学習を体系的に教える手立ても必要なため、教科の専門性も重視して対応している。

(5) 高校進学に対応した支援

ここは、生涯を通して学習していくために必要な資質である自学自習の習慣を養うことを眼目に活動していて、高校進学を希望する受験生を対象にした学習支援の場ではない。しかし、今年も受験対策を目的の駆け込み需要が多くあった。全員が経済的事情で塾通いがままならない子たちであり、子どもたちにとっては塾代わりを期待している。目の前のニーズにもしっかり応えて、受験に対応する支援にも力を注いだ。

①教科指導も可能なコーディネーターの配置

月曜日	英 語	上江 美保	30 年 8 月より
水曜日	数 学	四之宮 学	30 年 9 月より
木曜日	理 科	澤本 良昭	30 年 9 月より
土曜日	理 科		

②受験生を主とした特別の講座を開設

2019 年度受験対策講座

	月	日	曜日	午前 (9:00～13:00)	午後 (13:00～16:00)
1	12	1	土	社会 (藤田)	国語 (原田)
2	12	8	土	社会 (篠崎)	体験活動 (プリンづくり)
3	12	15	土	国語 (早川)	国語 (早川)
4	12	22	土	国語 (三橋)	理科 (澤本)
5	12	24	月	英語 (上江)	社会 (藤田)
6	12	26	水	数学 (四之宮)	英語 (上江)
7	12	27	木	社会 (藤田)	数学 (四之宮)
8	12	29	土	英語 (吉田)	理科 (澤本)
9	1	5	土	社会 (藤田)	社会 (藤田)
10	1	12	土	社会 (藤田)	理科 (澤本)
11	1	14	月	国語 (小久保)	英語 (上江)
12	1	19	土	社会 (藤田)	社会 (藤田)
13	1	26	土	国語 (小久保) 中止	私学後期対策 (藤田)
14	2	2	土	社会 (藤田)	理科 (澤本)
15	2	9	土	社会 (藤田) 雪の為中止	社会 (藤田) 雪の為中止

※一部既習の内容がある講座は 2 年生も受講した。

③教科指導以外の支援

- ・進路選択の面談
- ・面接の練習
- ・作文練習
- ・持ち物・服装の支援

④受験の結果

	進 学 校	受 験 校			
		公立高校		私立高校	
		前期入試	後期入試	前期入試	後期入試
A 女	千葉県立東金高校	○	—	—	—
B 女	千葉明德高校	×	×	併願 ○	—
C 男	千葉県立九十九里高校	○	—	併願 ○	—
D 女	千葉学芸高校	—	—	専願 ○	—
E 女	千葉学芸高校	—	—	—	専願 ○
F 女	千葉県立東金高校・定	○	—	—	—

E 女は受験体制の準備ができなくて後期受験になった。F 女はほとんど関りを持てなかったが、昨年兄が進学した学校に合格した。



8) 食事提供の状況

週 4 回の食事提供について、家庭での食事の機能を損ねてしまわないかと懸念したが、ほとんどの利用者が置かれている家庭の状況から推察すると、4 回の提供のほうに益があると判断して今年度も 4 回提供で実施した。学習習慣づくりの第一歩の効果もある。ほぼ学習習慣がなく食事時間ギリギリに通所して来ている子がいたが、食事の回数を重ねてくると、早目に通所して机に向かうようになった子もある。そうした効果もあり週 4 回の食事提供を実施している。

(1) 提供食事数

① 学び舎・ゆーすぽーと

利用者のほぼ全員が食事を摂るので、延べ利用者数と同数程度だが、受験対策講座実施時は 2 食提供したので、講座参加者数がプラスされる。

② ふくおか・サテライト

サテライトも利用者は必ず食事を摂るので利用数と同数程度だが、学校の給食がないときや長期休業中は 2 食提供しているので、その分と登校を促すため朝食も提供することがあるのでそれもプラスされる。

(2) 食事調理者

① 学び舎・ゆーすぽーと

調理ボランティアに頼ってスタートしたが、ボランティア不在時はコーディネーターが調理。実績は 190 回の提供のうち 72 回をボランティアの方に調理していただいた。38%。受験講座時にプラスした食事は全てコーディネーターが調理した。

② サテライト

サテライトは小規模多機能ホームふくおかの家のスタッフが調理。ホームの利用者と一緒に喫食した。

(学び舎・ゆーすぽーとの食事風景)



(ふくおか・サテライトの食事風景)



(3) 提供食事メニュー

(9月のメニュー)

日	曜日	メ ニ ュ ー	食数	担当	備 考
1	土	焼きそば、中華スープ	6	C	
3	月	オムライス、マカロニサラダ、スープ、西瓜	9	C	西瓜差入れ
5	水	カレーライス、サラダ、スープ、ぶどう	9	C	ぶどう差入れ
6	木	酢豚、サラダ、みそ汁	9	V	
8	土	チャーハン、中華スープ、西瓜	6	C	西瓜差入れ
10	月	魚切り身焼き、豚汁、西瓜、ぶどう	7	C	ぶどう差入れ
12	水	肉じゃが、スープ	8	V	
13	木	厚揚げの挟み煮、サラダみそ汁、ぶどう、西瓜	8	V	ぶどう・西瓜差入れ
15	土	手づくり餃子、みそ汁、ゆで栗	3	C	栗拾い体験 雨天
17	月	カレーライス、みそ汁、ゆで栗	6	C	染物の体験教室
19	水	栗の炊き込みご飯、目玉焼き、みそ汁	7	C	
20	木	秋刀魚の塩焼き、豚汁、サラダ	6	C	
24	月	うどん、ポテトサラダ	8	C	
26	水	魚の切身焼き、餃子、サラダ菜炒め、みそ汁	6	C	
27	木	鶏の唐揚げ、ポテトフライ、サラダ、スープ	7	C	
29	土	マーボ豆腐、ニガウリカレー炒め、スープ	4	C	

※担当のVはボランティア、Cはコーディネーター

(2月のメニュー)

日	曜日	メ ニ ュ ー	食数	担当	備 考
2	土	恵方巻、いなり寿司、スープ、苺	9	V	苺差入れ V:7人
4	月	チャーハン、ナムル、餃子、スープ	7	C	
6	水	金山寺みそ漬け切り身、卵かけ、豚汁	6	C	雨天
7	木	八宝菜、小松菜のツナ和え、豚汁、リンゴ	8	V	
9	土	グーラーメン、チャーハン、ぼんかん	5	C	
11	月	チャーハン、スープ、リンゴ	3	C	降雪、Vキャンセル
13	水	キーマカレー、みそ汁、ジェラート	9	C	ジェラート差入れ
14	木	切身魚、かぶと白菜の煮びたし、みそ汁	8	V	
16	土	ハンバーグ定食（レストランで）	12	—	演奏会と同時に招待
18	月	唐揚げ、芋ケンピ、ブロッコリー、みそ汁	10	C	
20	水	オムライス、肉団子と春雨スープ、りんご	10	V	チーズケーキ差入れ
21	木	親子煮、サラダ、みそ汁	12	V	
23	土	チャーハン、中華スープ、りんご	5	C	
24	日	朝：おにぎり 昼：焼き魚、餃子、みそ汁	1	C	夕：手打ちそば
25	月	グーラーメン、白菜と水菜の豚肉蒸し、餃子	11	V・C	
27	水	塩鮭焼き、生卵（酵母卵）、野菜蒸し、みそ汁	12	C	
28	木	おでん、野菜サラダ、苺	5	V	苺差し入れ、雨

※グーラーメンは東金の特産品のラーメンであり、ふるさと納税返礼品でいただいたものである。

(4) 食材について

- ・米は全て寄贈品で賄っている。
- ・野菜は端境期以外ほぼ寄贈品。今年度の夏は大暑だったため地元農家の皆さんも野菜が不足していたため、購入することが多かった。
- ・肉や魚は購入したが、魚はふるさと納税の返礼品として市の財政課より支援していただいたものが多かった。返礼品のため高級食材を楽しむことができた。
- ・卵は年度後半の1月より1年間、ふるさと納税返礼品で毎月100個頂けるようになって、以来卵を使ったメニューが増えてきている。
- ・調味料はほぼ購入したが、味噌は手前味噌の寄贈があったり、後半からは去年の体験活動「みそづくり体験」の成果を利用したりしている。自分たちで作った味噌に愛着を感じて、飲み干すようになっている。
- ・果物はほぼいただきものである。冬場にリンゴを購入した位である。
- ・嗜好品もほぼいただきものであり、ふるさと納税返礼品で少し贅沢なスイーツをいただいている。ジェラートやチーズケーキ、ブッフエ、マシュマロなど。

※ふるさと納税の返礼品とは、東金市に高額のふるさと納税をされた方が返礼品を福祉に役立てて欲しいとの志を示されたのを受け、財政課がゆーすぽーとに向けてくださったものである。

(食事の一例)



2. 社会体験学習・生活訓練

多様な社会体験や協働作業の体験の機会を得ることにより、生活力やコミュニケーション力等の向上が期待できるため実施。その他、日々の中で、子ども達が家に帰ってからでもできること、将来の個々の生活を見据えた、生活習慣体験を織り交ぜ実施した。

1) 実施状況

(1) 学び舎・ゆーすぽーと

NO	体 験 名	活動日	曜日等	講 師 名	備 考
1	いちご狩り	5/19	土		道の駅
2	夕食づくり体験	6/16	土	花澤 昌利	ゆーすぽーと
3	農業体験教室	6/25	月	積田 隆夫	ゆーすぽーと
4	モンゴルでの生活の語り	6/28	木	鈴木 信明	ゆーすぽーと
5	ポスター指導	7/23	夏休み	眞鍋薫・力	ゆーすぽーと
6	ブルーベリー狩り体験	7/26	夏休み	原 秀子	市内・松之郷
7	読書感想文・作文指導	8/4	夏休み	三橋 礼子	ゆーすぽーと
8	ポスター指導	8/11	夏休み	眞鍋薫・力	ゆーすぽーと
9	木工教室	8/16	夏休み	川越 三郎	ゆーすぽーと
10	笑いヨガ教室	8/18	夏休み	久保田恵子	ゆーすぽーと
11	クラフト教室	8/23	夏休み	眞鍋薫・力	ゆーすぽーと
12	オカリナ絵付け体験	8/29	夏休み	田中 和良	ゆーすぽーと
13	栗拾い体験	9/15	土	戸田 敦夫	市内・松之郷
14	染物教室	9/17	月・祝	澤本 玉怜	ゆーすぽーと
15	アレンジピザづくり	10/8	月・祝	齊藤 律子	ゆーすぽーと
16	パソコン教室	10/13	土	川島 郷志	千葉学芸高校
17	茶道教室	10/27	土	田畑 美乃	千葉学芸高校
18	収穫体験（さつま芋、落花生）	11/3	土・祝	積田 隆夫	大網・金谷郷
19	収穫体験（柿）	11/3	土・祝	川崎 晴美	大網・長国
20	プリンづくり、礼法教室	12/8	土	西山 しげ	ゆーすぽーと
21	リースづくり	12/8	土	原田 珠希	ゆーすぽーと
22	餅つき体験	12/26	冬休み	伊藤しづの	ゆーすぽーと
23	恵方巻づくり	2/2	土	天野 晶子	ゆーすぽーと
24	アンサンブル演奏会	2/16	土	野老真理子	大里総合管理
25	自炊体験	3/9	土	森下 吉子	中央公民館
26	自分たちで夕食づくり	3/16	土		ゆーすぽーと
27	ホテルでランチ体験	3/27	春休み	成澤 稔	成田空港ホテル

	社会体験活動名	参加数	活 動 内 容 等
1	いちご狩り	5 人	市内道の駅「みのりの郷東金」に併設されたいちご園に招待され、4 種類の苺を食べ比べた。
2	夕食づくり体験 (餃子づくり)	8 人	餃子づくり名人を講師に、参加者全員でキャベツの刻みなど下準備から包みまで取り組んだ。いろいろな形に出来上がったが、自分で作った味は格別だったようで平均 20 個以上食べた。
3	農業体験教室	7 人	きゅうり、ミニトマト、ナス、オクラ、青じその苗をプランターに植えた。その後水やりの管理をし、成長過程を毎日観察した。順調に育ち、多くの収穫があり、子どもたちの手で収穫。調理もした。
4	モンゴルでの生活 の語り	6 人	モンゴルに日本語教師として勤務した人から、スライド写真を見せてもらいながら話を聞いた。その雄大な風景に感動し、自然の厳しさに触れ興味津々で聞いていた。
5	ポスター指導	6 人	夏休みの課題の中で子どもたちが悩んでしまう一つがポスター作製の宿題である。そこで、ベテランの美術教師 OB に手ほどきを受けた。グラデーションのテクニックを教わり、お気に入りの作品を仕上げた。
6	ブルーベリー狩りと ジャムづくり 体験	9 人	市内のブルーベリー畑で食べ放題をしながら、バケツいっぱいの収穫をした。その実を使って併設されている加工場で、プロ講師に手ほどきを受けてジャムに加工した。ジャムを瓶詰にして、家族へのお土産にした。一部は小瓶に詰め、お世話になっているボランティアさんにプレゼントした。その時の顔は得意げだった。講師の方が焼いてくださったパンにジャムを付けて食べた昼食は最高だった。
7	読書感想文・作文 指導	6 人	ポスター同様、子どもたちを悩ませるのが読書感想文や作文だ。この指導にたけた現役教員に指導してもらった。子どもたちが一人ひとり選んだ課題図書を読み込んできてくれて指導していただいたので、全員がその場で完成することができ、胸のつかえをなくして、笑顔で帰宅した。
8	ポスター指導	5 人	5 の続きと、新規参加者への指導をしていただいた。
9	木工教室	10 人	昨年度に続き 2 回目の体験だった。出来上がった作品を持ち帰ることができることで、人気の体験である。小物の飾り棚や鍵掛けボード、踏み台にもな

			る椅子などを作った。自ら釘を打ち、組み立てた後はペンキを塗り、ステンシルで装飾した。どの子どもも満足の作品を仕上げ笑顔で持ち帰った。
10	笑いヨガ教室	11 人	調理ボランティアのメンバーに笑いヨガの免許を持つ人がいて実施してくれた。笑いながら様々な動作をとることによって、コミュニケーションがよくなり人間関係やパフォーマンスをあげることができるということで企画した。小学校低学年は恥ずかしがって尻込みする子が多かった。
11	クラフト教室	9 人	紙粘土でデコレートした鏡を作成した。20 c m四方の網状の箱の真ん中に鏡が付いたもので、鏡の周囲を粘土で飾り付けるものだった。3 原色の紙粘土を混ぜ合わせ好みの色の紙粘土を作って張り付けた。どの子どもも彩り豊かな彩色を施し、満足できる作品に仕上げた。
12	オカリナ絵付け体験	12 人	子どもたちの手で粘土をオカリナの形にして、それを藁で焼き、その後絵付けをするという本格的な体験の企画だった。数日前講師が入院したため、講師が作りためた素焼きのオカリナを送ってもらい、別の美術教師の講師に絵付けの手ほどきを受けた。どの子どもも可愛い柄のついた、美しい作品に仕上げた。
13	栗拾い体験	3 人	栗の収穫のタイミングを次週に持ち越せなかったために雨天決行となり、参加者が極端に少なくなってしまった。3 人と高校生ボランティア 2 人とコーディネーターとで大量の栗を収穫した。後日、炊き込みご飯やゆで栗として夕食のメニューに載せ、全員が楽しんだ。
14	染物教室	6 人	絹のハンカチをブルーベリーで染色した。⑥のジャムづくりではねられたブルーベリーを冷凍しておいて使用した。自分たちが摘んだ身近な材料が染料になることに驚いていた。乾いてから持ち帰るように指示したが、早く家族にプレゼントしたいと半乾き状態で持ち帰った。
15	アレンジピザづくり	9 人	冷蔵庫に残っていた餃子の皮の利用から発想された企画の活動だった。冷蔵庫・冷凍庫に長期保存していた食材を掘り起こし、活用して作ったピザもなかなかの味で何枚も何枚も食していた。嫌いな野菜もチーズがかかると別物になるようで、好んで食べていた。

16	パソコン教室	11 人	県内でも有数の設備を有する市内の私立高校の PC 教室を借りて実施した。講師はその学校の教師と生徒が引き受けてくれて、名前シールと、ハロウィンカードを作成した。ローマ字を学習していない子もいてハードルが高いのではないかと懸念していたが、優しく指導して下さり、全員が力作を仕上げる事ができた。どの子も PC への興味が募らせていた。
17	茶道教室	7 人	⑩と同じ学校の茶室を借りて、同行の教師と茶道部の生徒たちから、茶道の話を伺った後、本格的なお点前を受け、緊張した面持ちで抹茶をいただいた。そのあと校内を見学させていただいて、子どもたちは高等学校のイメージを抱くことができた。
18	落花生とさつま芋の収穫体験	6 人	前年度に栽培をお願いしておいた畑に、車で 30 分ほど移動して実施した。好天に恵まれ絶好の収穫日の中、汗をかきながら大量に収穫した。2 度目の子も多く手馴れていた。収穫後、講師の先生があらかじめ茹でてくださっていた落花生「おおまさり」に舌鼓を打った。
19	柿の収穫体験	6 人	⑪と同じ日、20 分ほど移動して、柿の収穫体験をした。出荷用に栽培した柿で大きく形が揃ったみごとな富有柿だった。食べやすく切っておいてくれた柿をたらふく味見した後、それぞれで収穫して、お土産にいただいた。柿の収穫はもちろん大喜びだったが、講師のお宅の古民家にも興味をそそられていた。古民家を背景に記念写真を撮ってお暇した。
20	プリンづくりと礼法教室	10 人	手作りお菓子を道の駅に卸している人に指導を受けて、みんなで力を合わせ美味しいプリンづくりを体験した。どの子も笑顔で 2 個 3 個と食べていた。プリンづくりの後に、講師が以前勤務していた高校で講義していた経験を活かして礼法指導をしてもらった。受験生には直近で役立った。
21	リースづくり体験	10 人	高校生ボランティアの持ち込み企画の体験だった。家族の応援を得てすべての材料を持ち込みで行ってくれた。サプライズ体験に子どもたちは大喜びだった。
22	餅つき大会	10 人	機械でつく餅だったが、つきたての餅を講師の方にちぎってもらい、納豆餅、きな粉餅、あんこ餅、辛味餅、甘辛醤油餅など多様な味付けで堪能していた。食べた後は、正月用のお供え餅と、雑煮用の餅

			を作った。
23	恵方巻きづくり 体験	9 人	太巻きづくり名人の主婦に講師になってもらって実施した。どの子も欲張って全ての具材を包みこんだため海苔からはみ出す太目の恵方巻だった。全員でその恵方巻を今年の方角の東北東を向いてほおばった。
24	アンサンブル演奏 会とレストランで の食事体験	12 人	入場料 1500 円のアンサンブル演奏会のチラシを見て、主催者に値段交渉をしたところ無料で招待していただけることになって実現できた企画である。おまけに、子どもたちに食事の招待までつけてくださった。クラシック音楽になじみのない子どもたちが静かに演奏を聴いていられるか心配したが、杞憂だった。「また来たいな」の声が矢継ぎ早に寄せられた。
25	自炊体験	7 人	現職の給食調理員さんを講師に、市の中央公民館の調理室を減免で借用して実施した。全員がフルに活動しなければならない少人数設定の班分けで、ごはん、みそ汁、一品のおかずづくりに挑戦。ハンバーグ、野菜炒め、ポテトサラダは相互に分け合い、豪華なランチをいただいた。この日だけは全員が好き嫌いなく、きれいに完食した。
26	自分たちで夕食 づくり体験	6 人	②で体験した応用で、全て子どもたちの手で昼食づくりをした。ハンバーグづくりを体験した 2 人が中心になって、他のメンバーを指示して見事なハンバーグ定食を作った。
27	成田空港見学と ホテルでランチ 体験	16 人	中学校を卒業するメンバーのお祝いを兼ねた体験活動だった。食事マナーの習得や初めてのホテル体験、国際的な雰囲気を体験するねらいで実施した。待ちに待ったホテルでのバイキング、雰囲気に飲み込まれてぎこちなかった子どもたちも手順を習得したら、どんどん皿が交換されてどの子も 10 枚を超えた。幸せそうな顔でステーキ 8 皿完食を吹聴する子もいた。空港では飛び交う外国語や姿が違う外国人に戸惑いながらも、異空間を楽しみ夢を膨らませている様子だった。

いちご狩り



夕食づくり体験



農業体験教室



モンゴルの生活の語り



ポスター



ブルーベリー狩り



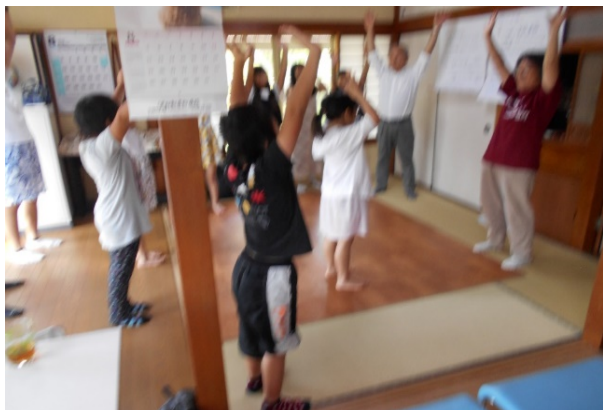
読書感想文・作文指導



木工教室



笑いヨガ教室



クラフト教室



オカリナづくり教室



栗拾い体験



染物教室



アレンジピザづくり



パソコン教室



茶道教室



落花生とさつま芋の収穫体験



柿の収穫体験



プリンづくり



礼法教室



リースづくり体験



餅つき大会



恵方巻づくり体験



アンサンブル演奏会



自炊体験



成田空港見学とホテルでランチ体験



(2) ふくおか・サテライト

No	体 験 名	日程	曜日	講師名	会場	参加数
1	書道教室	11/14	水	関沢 晶子	ふくおかの家	3 人(地域 6 人)
2	ヨガ教室	11/28	水	平田 佳織	ふくおかの家	2 人(地域 17 人)
3	書道教室	12/12	水	関沢 晶子	ふくおかの家	2 人(地域 6 人)
4	ヨガ教室	12/15	土	平田 佳織	ふくおかの家	1 人(地域 11 人)
5	書初め教室	1/4	金	関沢 晶子	ふくおかの家	2 人(地域 1 人)
6	ヒップホップ教室	1/19	土	及川 隆斗	おひさま文庫	7 人(地域 14 人)
7	書道教室	1/23	水	関沢 晶子	ふくおかの家	3 人(地域 7 人)
8	ヨガ教室	1/26	土	平田 佳織	おひさま文庫	0 人(地域 10 人)
9	書道教室	2/13	水	関沢 晶子	ふくおかの家	3 人(地域 6 人)
10	ヨガ教室	2/23	土	平田 佳織	ふくおかの家	2 人(地域 13 人)
11	ヨガ教室	3/ 9	土	平田 佳織	ふくおかの家	2 人(地域 7 人)
12	ヒップホップ教室	3/30	土	浅野 歩美	ふくおかの家	2 人(地域 6 人)

※体験は、それぞれで企画しているが、送迎して相互交流をしている。

サテライトの体験は、親子教室と称して地域の人たちにも参加を呼び掛けている。

書道教室



ヨガ教室



ヒップホップダンス教室



2) その他の日常活動の体験

社会体験活動のような特別仕組んだ活動以外にもゆうすぽーとには下記のようなたくさんの活動があり、子どもたちは積極的・意欲的に取り組んでいる。そして、子どもたちがこの日常の活動からたくさんのことを学び、成長できるように考え、大切なものとして位置付けている。ゆうすぽーとにはたくさんの来訪者があるが、スタッフが不在の際にも丁寧に対応する姿が幾度となく報告されている。

- ・ 毎日の食後の片付けや食器洗い
- ・ 活動後の学習室やトイレの清掃
- ・ 布巾やタオルの洗濯
- ・ 洗濯物の取り込みとたたみ
- ・ 雨戸の戸締り
- ・ 節目の大掃除

- ・ 庭の草取り
- ・ 草花や農業体験で植えたプランターの水やりや収穫
- ・ 調理の手伝い
- ・ 来訪者への対応



3. ボランティア・サポーター養成

困難を抱える子どもや家庭の理解を進めると共に、具体的な支援にあたる人材の確保を目的にボランティアとサポーター養成を行った。

1) 「高校生のためのボランティア体験講座」プログラムの受入れ

さわやかちば県民プラザが実施している、高校生を対象としたボランティア体験プログラムを通じて、2名の高校生が、2日間にわたり活動した。プログラム終了後も継続的にボランティアに来ている。活動の感想を報告会でも発表した。

2) ボランティア講座

開催日時：平成30年11月30日（金） 9:30～11:00

場 所：城西国際大学・講義室

参加者数：24名

内 容：①法人の取り組みと子どもの課題について講話
②学び舎・ゆーすぽーとの取り組み
③質疑応答

3) ボランティア・サポーター交流会

開催日時：平成30年11月21日（水） 18:00～20:00

場 所：学び舎・ゆーすぽーと

参加者数：26名

内 容：様々な形で運営に参画頂いているボランティア同士の顔合わせ、関係づくりの場

4. 子ども支援コーディネーターの設置

困難な状況に置かれている子どもを関係機関と共に支えるため、子ども支援コーディネーターを設置し、関係機関と連携し、包括的な相談支援を実施した。

1) 子ども支援コーディネーター

活動場所	役 割	氏 名	資格・経験
本体 (6人)	主任コーディネーター	藤田 実	教員、生活困窮者自立支援事業・相談員
	コーディネーター	福島 邦英	教員
	コーディネーター	篠崎 健一	教員、生活困窮者自立支援事業・相談員
	コーディネーター	四之宮 学	教員
	コーディネーター	上江 美保	教員、家庭教育相談員
	コーディネーター	澤本 良昭	教員
サテライト (2人)	コーディネーター	鈴木 孝雄	
	コーディネーター	安井 瑞江	保育士

※ コーディネーターの補助メンバー 川島悠季、鈴木麻菜美

2) 相談支援の状況

(1) 相談内容

- ・ 高校進学等進路に関すること
- ・ 経済的困窮に関すること
- ・ 学校生活のこと
- ・ 不登校のこと
- ・ 家族間の虐待に関すること
- ・ その他、暮らし全般のこと

(2) 相談方法

- ・ 対面での面談
- ・ 電話での相談
- ・ 送迎時の相談（3 世帯は意識して必ず会話を心掛けた）

（※相談などを意識していない、低学年の子どもたちの会話の傾聴ときめ細かな行動観察を心掛けた。）

(3) 相談数

保護者・・・12 人 延べ 23 回以上
子ども・・・面談では 12 人 延べ 34 回以上

5. ミニシンポジウム・中間報告会

1) 中間報告会

開催日時：平成 30 年 11 月 21 日（水） 13:30～15:30

場 所：東金市ふれあいセンター・和室

参加者数：30 名

内 容：①基調講演「子どもを取り巻く問題や課題」

松戸市役所総合政策部（兼）子ども部（兼）教育委員会学校教育部
審議会 胡内 敦司 氏

②「学び舎・ゆーすぽーと」中間報告

③ディスカッション（会場の皆さんと）



2) 事業報告会

開催日時：平成 31 年 3 月 6 日 13:20～15:30

場 所：東金市文化会館 2 階・会議室 2

参加者数：77 名

内 容：①基調講演「貧困・虐待・孤立から子どもを守るために…私たちができること」

講師：湯浅誠 氏（社会活動家、法政大学教授）

②「学び舎・ゆーすぽーとの活動報告」

③質疑応答



6. 報告書の作成

本事業の報告書を 200 部作成し、東金市・東金市教育委員会等行政機関及び東金市内の小中学校、登録ボランティア、寄付・寄贈者、市内・山武郡内のボランティア・市民活動関係者、介護・障がい福祉サービス事業所へ配布した。

第 2 章 事業評価

1. 子ども・保護者の評価

1) ゆーすぽーとの存在がなくてはならない存在になってきている

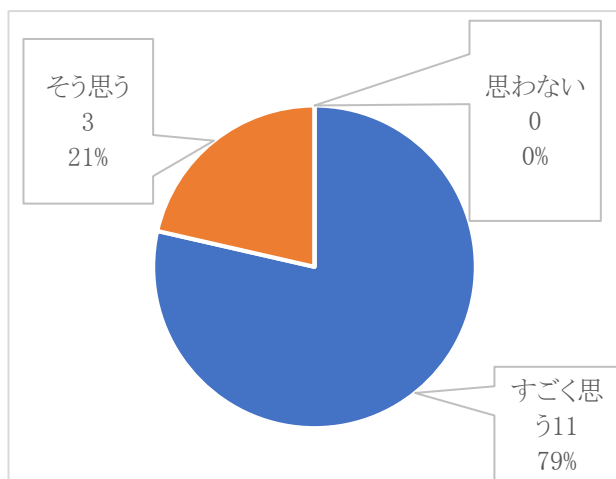
以下のグラフは年度末に利用者および保護者を対象にしたゆーすぽーとの存在を問うアンケートの結果である。利用者は19人、保護者からは14世帯の回答を得られた。以下のグラフの調査数は同数のため記述を略す。

利用者には、「あなたはゆーすぽーとがあつてよかったか」と、保護者には、「あなたのお子さんにとってゆーすぽーとがあつてよかったですか」と問うた。利用者、保護者共に全員が「そう思う」と回答してくれている。

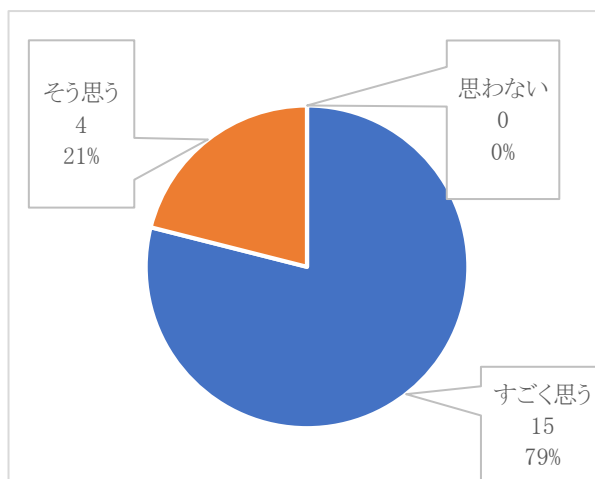
利用してくれている子どもたちにとってはなくてはならない存在になってきていると思われる。保護者の方々にもその存在を認知、評価されてきていると思われる。

つなぎの各機関の担当の方々からも、ゆーすぽーとが、子どもたちのセーフティーネットになっていると認識されて、活動を評価してもらっている。

利用者の回答



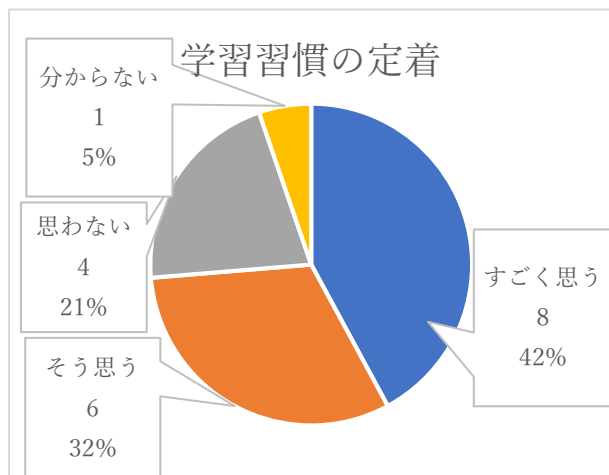
保護者の回答



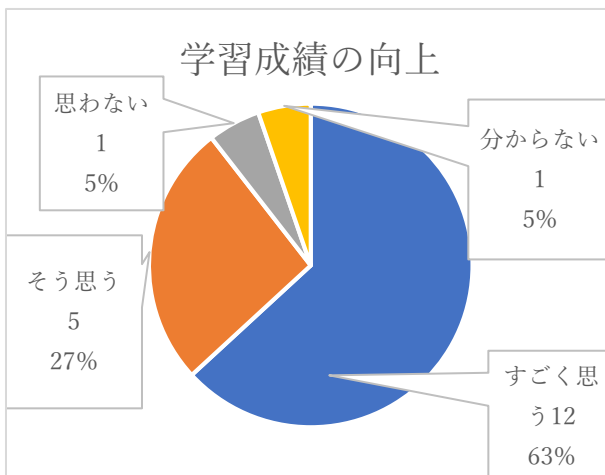
2) 学習習慣の定着と学力向上が図られた

以下のグラフは年度末に利用者および保護者を対象にした「学習支援に対する」アンケートの結果である。

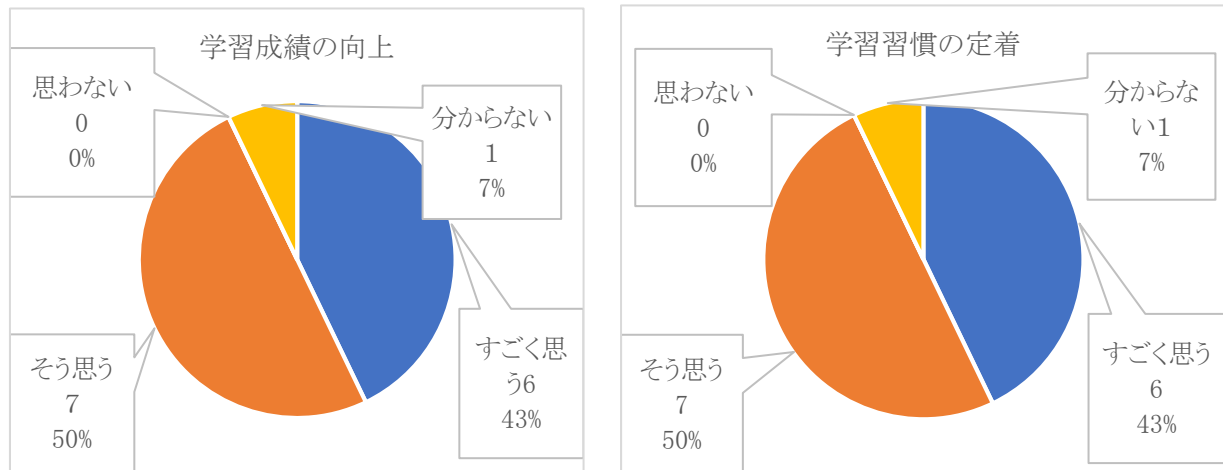
利用者の回答



保護者の回答



保護者の回答



グラフから読み取られるように、「学習習慣が身についたか」と「成績が上がったか」の問いに、多くの利用者が「そう思う」の回答を寄せていた。特に成績向上の問いにはどの子も成績が上がったことを実感しているようだ。年度末の「私にとってのゆーすぽーと」の作文にもそのことに触れている子が多くいた。なにより、学校で受け取った「通知表」や「実力テストなどの結果」を持ち込んで見せてくれる子が多くいた。嬉しくて、嬉しくて親に見せるより先にゆーすぽーとに持ってくる子までいた。

保護者も年度末ぎりぎりに入った子の保護者が分からないを選択された以外は、みなさん肯定的に評価されていた。

小6 男子 理科、社会の成績が上がりました。通知表のBだったのがAにかわった時に、先生や中学生に教えてもらったからだと思います。

小6 女子 ゆーすぽーとに入ってから漢字や苦手だった社会も高得点をとれるようになったので嬉しかったです。

中3 女子 ゆーすぽーとに来たおかげで、志望する高校に前期試験で合格できた。

中3 女子 利用して本当に良かったです。おかげで高校に合格できました。

小2 女子 べんきょうがとくいになりました。ここにいっぱいきて、もっともっとできるようになりたいです。

中2 女子 学べる時間が増え、前よりも勉強がわかるようになりました。

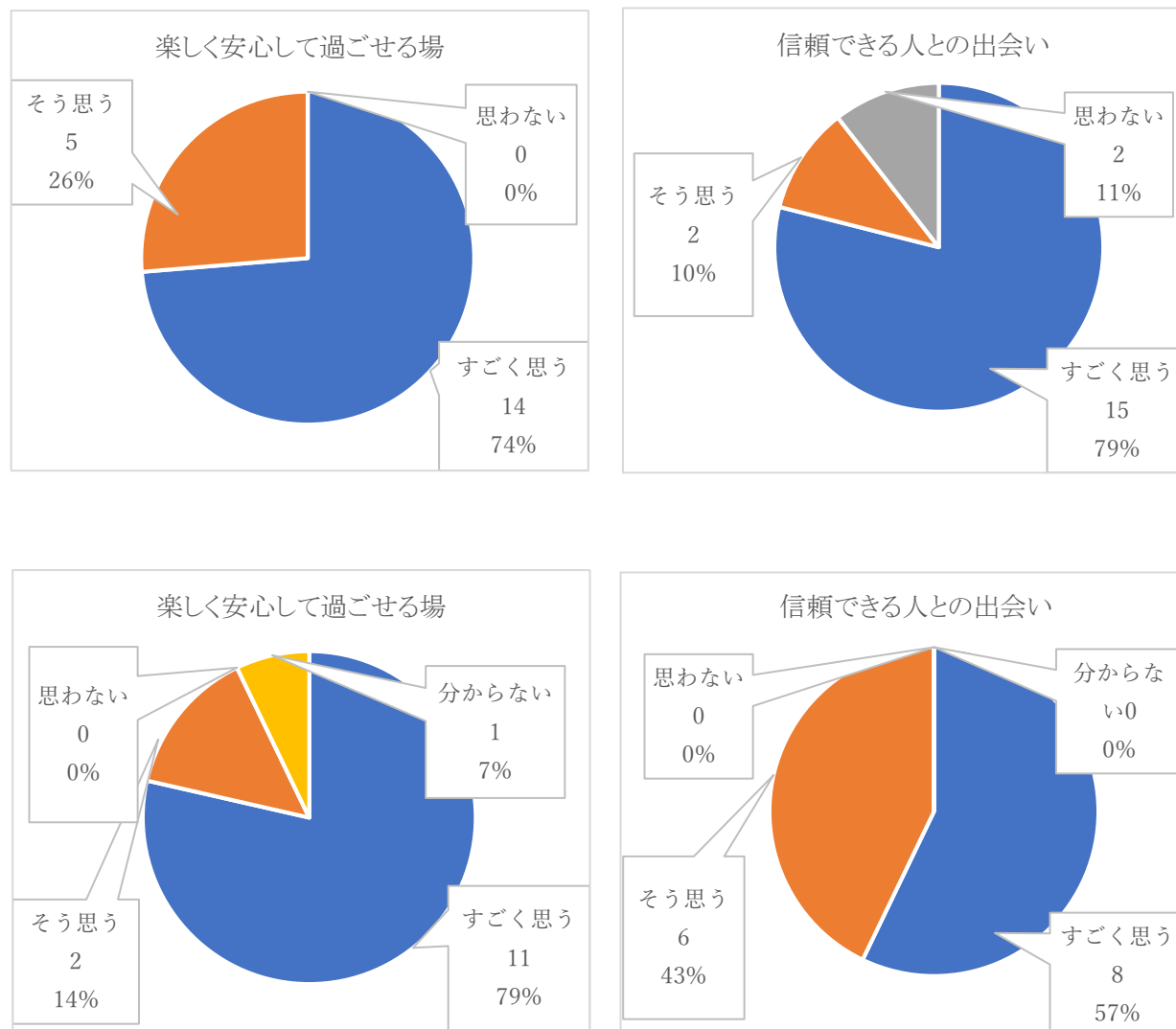
中3 男子 勉強の仕方についてもわかりやすく指摘して下さって、そのおかげで、志望高校に無事合格できました。

小3 男子 問だいができたときやすらすら読めたとき、先生はすごい、すごいって言ってくれます。ぼくはすごくうれしいので、ずっとここに、ゆーすぽーとに来たいです。

3) 居場所機能が充実した

以下のグラフは年度末に利用者および保護者を対象にした「居場所について」のアンケートの結果である。

利用者の回答



グラフから読み取れるように、ゆーすぽーとは楽しく安心して過ごせる場所になっているかの問いに、長期にわたり継続的に利用している子どもたちが揃って「そう思う」と回答した。

ゆーすぽーとでの普段の光景の中に、その心境が見て取れる。学校や家庭で生きづらさを感じている子どもたちが、ここにいる間中笑顔絶やさない。同じような境遇にあると理解し合っている子どもたちは、飾らず、開けっ広げに会話を楽しんでいる。食事の時間を30分確保しているが、声を掛けずにいると延々と話が止まらない。子どもたちの作文の中にもそこから読み取れる箇所が多くある。

保護者の方々にも子どもの思いが伝わり、安心されて肯定的に評価されているものと思われる。

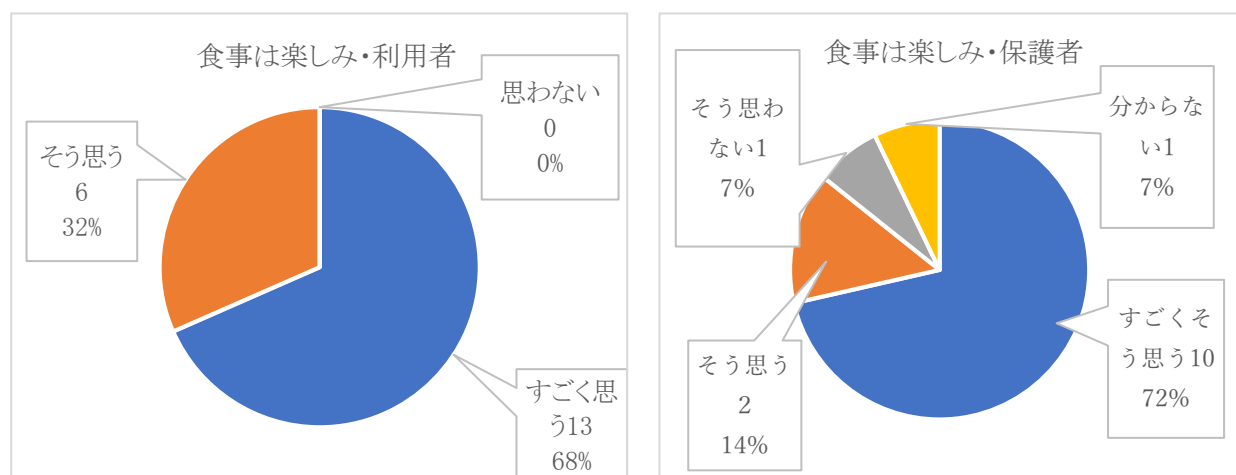
中3女子 私はここで変わりました。決まった人とはしか話せず、人見知りばかりしていたが、ゆーすぽーとに通うようになって変わることができたのです。・・・みんなのことを大切にしたいと思います。これからもずっとずっとこの関係を続けたいです。

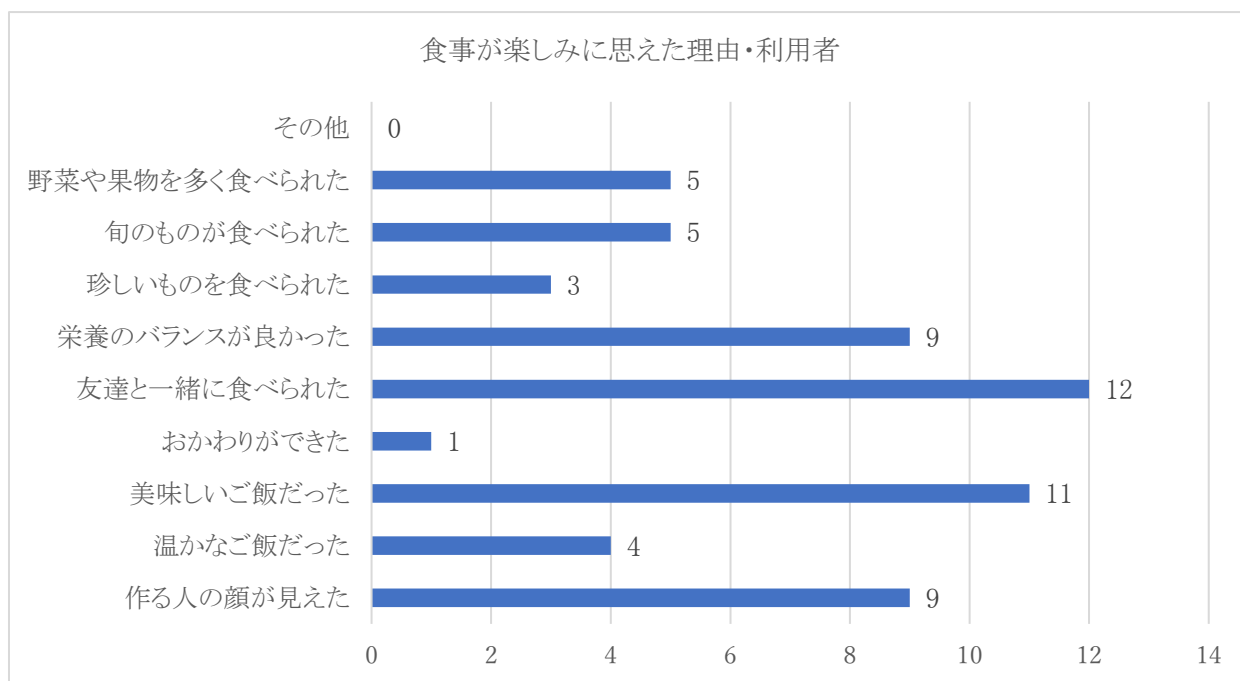
- 中3 女子 中3の夏ごろから数か月間ゆうすぽーとを休んでいました。今になると、休んでいた間がとてももったいなく感じます。受験の追い込み時期、久しぶりにゆうすぽーとに来てとても元気になりました。・・・あっという間に前期入試となり、私以外は合格でした。そんな時、ゆうすぽーとのみんなが支えてくれたので、後期入試までの1週間を耐えることができました。
- 中3 女子 悩んでいた友達関係もいろいろアドバイスをしてもらって上手くいくようになりました。本当に先生や友達に感謝してもしきれないです。
- 中2 女子 ゆうすぽーとに来た時、みんな明るく元気な人たちで、みんなが声をかけてくれました。私は、学校ではあまり人と話さないのですごくうれしかったです。
- 小6 女子 ゆうすぽーとの友達は、個性豊かでみんな面白いので、ゆうすぽーとに来るといつも笑ってしまいます。たまにしゃべり過ぎて勉強が進みませんでした。
- 小6 男子 食事はみんなで話せるうれしい時間です。
- 小6 女子 ゆうすぽーとに来るまでは、あまり友達がなくてつまらなかったけど、ゆうすぽーとに来てからはいつもわらったり、勉強したりして、とても楽しいことだらけです。
- 中1 女子 ゆうすぽーとに入ってから、友達も増え、年上の人やいろんな人と話す機会が増えました。
- 中1 女子 ゆうすぽーとの先生方や通っている人たちが、とても思いやりがあり優しさがある人が多く、とてもなじみやすい場所だと感じました。

4) 活動の多様化により食育機能が充実した

以下のグラフは年度末に利用者および保護者を対象にした「食事提供について」のアンケートの結果である。

食事提供を通しての食育





利用期間の短い利用者の中には、まだマスクを外せない子が 3 人いて食事の楽しさを堪能できていない子もいるようだが、全員が「食事が楽しい」と評価している。マスクが外れ、存分に会話の中に加わることができるようになると評価ももう少し上がりそうだ。

支援者に寄贈していただいた昔懐かしい卓袱台を囲み、「いただきます」と大きな声を揃え、会話を楽しみ、「ごちそうさまでした」と心より感謝する子どもたちの食事風景は全く自然で理想的な食卓シーンに映る。

子どもたちの日常的な会話に出てくる、個食やインスタント食、野菜や果物がほとんどない食事の情景からは想像できない場面であるし、姿である。長年の食事習慣でできた偏食や好き嫌いの多さも少しずつ改善されてきている。ご飯や麺などの炭水化物を好み、それだけで満足している姉弟がいた。汁物も好まず、野菜はほとんど受け付けなかった子たちだったが、積極的ではないが、完食できるようになってきている。

調理してくれるボランティアさんも一緒に食事をしてくださり、食材の名前や産地など、さらには調理法などを子どもたちに語ってくださることが多い。子どもたちは興味深げに聞いており、新しく入って来た子に、わが知識のように得意気に語っている。

食事の楽しみの理由に、季節の果物を食べることができることを上げている子が多いが、たくさんの支援者から旬の果物の提供を受けて、その季節にはほぼ毎日食卓に上っている。地域柄西瓜、ぶどう、柿などは、子どもたちが食傷気味になるほど続くことがある。

子どもの食事への態度にも変化がうかがえる。昨年、食事が楽しみという理由に「おかわり」ができていた子が 5 人いたのが 1 人になっている。この回答のように、食事の量もしっかりとコントロールできるようになってきているようだ。

食事に対する子どもたちの喜びの声と食事に対する保護者の感想の中に食育につながるものが記述されているので紹介する。

《子どもの声》

- ・食事はみんなで話せる、そしてしゅんの物が食べられるうれしい時間です。おかわりまでできて、作りにきてくれている人に声をかけたらニコニコして反応してくれてうれしいです。
- ・ゆーすぽーとのごはんはすごくおいしくてとまりませんでした。
- ・家の料理よりおいしかったです。
- ・家よりりょうりがおいしいし、家のりょうりはしょうゆのあじしかないんだよね。アハハハハハ。

《保護者の声》

- ・家では好き嫌いが多くて心配でしたが、ちゃんと食事をしてきてくれて助かりました。友達と一緒に食べることで、克服できたかもしれません。
- ・ゆーすぽーとで食事をしたときは間食しません。
- ・ゆーすぽーとから帰ってくると「〇〇〇」がすごくおいしかったと何度も聞きます。
- ・私が忙しく休日しか手の込んだものを作れないため、作った人の顔が見えて、作りたての手の込んだ食事を、みんなで食べているいるから楽しみなんだと思います。
- ・毎日の生活の中で食育は大切なものと認識しているが、親の勤務体制の中で、栄養のバランスを考え、なるべく地産の物、旬の食材などの調達が難しい事もある。そのような状況の中で、ゆーすぽーとではバランスの良いものを食べさせていただいていてありがとうございます。

5) 社会体験活動を通しての食育

今年度は子どもたちの食を通しての自立を意識して、食に関する体験活動を多く取り入れてきた。また、体験活動相互や日常の食事場面と意識的に食を通して関連づけることにも力を注いだ結果、子どもたちの中に食への知識が深まり、健康への気づかいを示したり、食を楽しみにしたりするなどの態度が養われてきたように思う。

《食育を意識して仕組んだ体験活動》

- ①いちご狩り体験
- ②夕食づくり体験（餃子づくり）
- ③農業体験教室（きゅうり、ナス、オクラ、トマトなどのプランター栽培）
- ④ブルーベリー狩りとジャムづくり体験
- ⑤栗拾い体験（一緒にミョウガを摘んで後日みそ汁に）
- ⑥アレンジピザづくり体験
- ⑦茶道教室
- ⑧収穫体験（さつま芋、落花生、柿）
- ⑨プリンづくり体験
- ⑩餅つき大会
- ⑪恵方巻づくり体験
- ⑫アンサンブル演奏会前のレストランでの昼食体験
- ⑬自炊体験（昨年の体験活動の味噌づくり体験で作った味噌を使用）
- ⑭ホテルでのバイキング形式のランチ体験
- ⑮自炊体験の延長で、子どもたちによる夕食づくり

6) 社会体験活動を通して自己効力感の育成ができた

社会体験活動を通して子どもたちはたくさんの事を学んでくれているが、ある男の子を観察していて自己効力感を育むチャンスとして注目した。小3の男の子は学習面ではかなり学年の平均より低く、文字の読み書きは小学1年生程度、計算力は小学2年生程度で、掛け算九九もスムーズに言えないほどだった。

社会体験活動のクラフトづくりの時だった。20cm四方の網状のプラスチック板の真ん中に丸い鏡がついた立て鏡を作るものだった。鏡の周辺を3原色の紙粘土を混ぜ合わせて好みの色の紙粘土を作って貼り付けるものだ。材料を配られてしばらくどの子も、思案投げ首で紙にデザインを描いている間、その男の子はデザインもなく、すぐに粘土をこねだし、その網に貼り付けていった。あっという間に形を仕上げ、周囲が始めようとするときには、ほぼ完成状態だった。猫をデザイン化したものだったが見事なデザインで色遣いも鮮やかだった。体験活動を写真で紹介した「クラフト教室」に写っている子が本人で作品を掲げている。当然周囲に褒められ、得意満面の笑顔を見せた。勉強中の彼の顔からは想像できないものだった。それ以前に体験した木工教室でもその片鱗を見せていて、大いに気分を良くしていたのだが、今回はその才能を強く感じた。

その後の、オカリナの絵付け教室や染物教室でも周囲から驚かれ、褒められ続けであった。そのころから、学習態度にも少し変化が読み取れるようになって来ていた。どの学習も投げやりなところがあつたが、最後までやり通すようになってきていた。そのころ実施したパソコン教室では、さらに驚かせる場面があつた。ローマ字を全く解さない子だったが、講師が作ってくれた表を見ながら誰よりも早く作業をした。名前シールとハロウィンカードを作ったのだが、誰もが平板なデザインだったのに彼は大胆に重ねたデザインで見ごたえのある作品を仕上げ、みんなに称賛され大喜びだった。

体験活動を通して、たくさんの目標を達成して「それはできる」と自信を持ってくれたものと思われる。今では、苦手だった教科の学習にも嫌がらず取り組んでいる。作文に次のように綴っている。

「工作やパソコンでぼくが早く作ったとき、先生は、すごい、すごいって言ってくれます。ぼくはすごくうれしいので、これからもずっとここに來ます」

7) 日常の活動の中から多くの学びがあつた

訪問した家庭の様子や子どもたちの会話の中から想像するには、調理の手伝いや後片付け、洗濯、掃除機かけなどの家事をおそらく家ではやっていないだろうし、やる場面もない子が多いと思われる。ゆーすぽーとは当番や分担を決めているわけではないが、子どもたちは進んで取り組み、みんなで協力して行っている。時にはやりたいことが重なってもめていることがあるが、譲る子がいて収まっている。

子どもたちの中には、家庭環境のため止む無く家事を義務付けられている子もいて家事に手馴れた子もいる。そんな子のやり方を真似て頑張り、すっかり手馴れてきている子も多い。子どもたち同士のそうした生活の知恵の伝承に力強さを感じる。

宿泊こそしないが合宿のような濃い共同生活を通して、ゆーすぽーとの特別プログラムにないこうした日常の中から子どもたちは多くの学びを得て、逞しく成長して、自立の一步を踏み出しているように感じる。

8) 不登校児童の学校復帰ができた

サテライト開設の理由の一つがサテライトに登録・利用している3姉妹が不登校になり家族全体で孤立状況にあったことへの対応だった。子どもたちは学校に行けず、ほぼ昼夜逆転の生活をしていました。

子どもたちが魅力に感じて参加しそうなゆうすぽーとの体験活動への参加を呼びかけ、送迎して受け入れた。その間サテライト開設の準備をして、保護者に参加を呼び掛けた所、喜んで利用を希望してくれた。子どもたちにも、施設を見学させて参加を促したら希望してくれた。

利用が始まったが、ゆうすぽーとは学校の補完の立ち位置にあったため、活動開始が午後になり姉妹の昼夜逆転の生活改善に結びつかなかった。そのため、市教委に相談してゆうすぽーとを既存の適応指導教室に準ずる扱いにいただき、ゆうすぽーとへの参加を出席扱いにさせていただくことになり、学校と同じ時間帯で活動する子ができて、少しだけ改善を見ることができた。

その後も、学校との連携を取りながら粘り強く支援をしていく中で、ステップを踏みながら登校できるようになってきている。最初は保健室登校だった姉妹も現在では教室に入ることができるようになってきている。その過程の中での姉妹への朝食提供は、学校復帰への大きな後押しになったと思われる。

母親も大変喜び、アンケートの自由記述欄に、「先生方のおかげで、学校に行けるようになりました。とても感謝しています」と綴ってくれている。

8) 親支援の拡大ができた

①活動終了後の預かり

ゆうすぽーと利用家庭の7割がシングルマザー世帯である。その内の数世帯が母親の病気等で生活保護を受給しているが、多くの割合の世帯では準要保護の適用を受けながら母親が懸命に働いている。しかし、ほとんどの人が非正規での就労で、低賃金や不安定な身分に置かれているため、ダブルワークや急な残業への対応などで疲弊したり苦慮したりしている。

初期には、残業対応に老親や兄弟を頼っていた親から、ある時困った様子で迎えが遅れるので少し預かってほしいとの連絡があり、申し出に対応して以降、遠慮なく申し出てくれるように伝えた所、とても安心されて、時々利用してくれている。

将来の願いを実現するため、準要保護の適用を考えないで懸命に働いている母親がいる。ダブルワークならずトリプルワークをしていて、仕事間の隙間時間に迎えにきているが、その時間が活動終了時刻を30分は過ぎている。預かりの時間に感謝されて1分でも早い迎えを心掛けておられるようで、いつも息せき切って玄関ドアを開けている。

②親の悩みへの傾聴

利用者の出迎えと帰りの見送りの際は、必ず顔を見て大きな声をかけることを日課にしている。その際に親が付き添っている場合は、必ず親と会話をして溜まっている思いや悩みに耳を傾け、相談に応じるようにしている。毎回、家族間の問題を吐き出して帰る母親がおられ、解決はできないが一息をついて帰られる。子どもの入所当初、迎えの際必ずと言ってよいほど、動作がのろいと厳しい表情で叱責していた親が、現在ではほとんどそうした光景を見ることなく、笑顔で帰られるようになっており、子どもの教育の相談や家族の悩みなどを話すようになってきている。

9) 身近な友達にロールモデルを発見

ここの利用者は、親・兄弟や身近な親戚などの中に、「〇〇のようになりたい」という憧れを抱く対象を持っていない。また、親の交際範囲も限られ、そうした対象と巡り合うチャンスが少ない。

ゆーすぽーとは講師やボランティア・コーディネーターなど多くの大人と交わる機会があるので、対象になってくれることを願っているが、なかなか年齢差の大きな人たちにイメージを持つことは困難だ。

しかし、今年度は高校生ボランティアが2人登録して、頻繁に足を運んで積極的に子どもたちに交わってくれた。2人とも高校1年生で、中3の子どもたちには、年齢の近い親しみやすいお姉さんの存在で、何かと話し、質問していた。彼らの中に「ロールモデル」が芽生えつつあるように感じた。

それ以上に、長い時間を共にした3年生の態度に利用者の後輩たちはそれを見たように感じている。特に、入所時は警察官を目指していた正義感あふれる子が目標を中学校教員に変え、資格を得るための大学をめざして、高校受験に真剣に取り組んでいた姿に自分を重ねていた子がいた。まさに彼女に「ロールモデル」を描いているのであろう。

10) 高校受験生への対応が充実した

今年度は、教科指導を主とした専門教科のコーディネーターを配置した。コーディネーターの皆さんの協力を得て、英語は月曜日、数学は水曜日、理科は木曜日と体験活動のない土曜日にと固定した曜日に配置できた。体制が整ったので、利用者には事前に質問したいところを持って参加するように呼びかけた。やるべきことが明確になって家庭での学習も習慣化されてきたように見受けられた。特に私立併願が不可能だった子は、計画的に学習に取り組んで質問事項を沢山抱えて参加し、コーディネーターを独り占め状態で学習に取り組んだ。学力も向上、安定し自信をつけてきて、進路への迷いもなくなった。それを見ていた他の受験生はもちろん、小学生たちにも好影響を及ぼして、自ら積極的に質問するようになってきた。特に小学生は英語への関心を示し、意欲的に取り組んだ。

11) ボランティアが質的に充実した（継続化と定期化）

学習支援、調理ともボランティアの延べ人数が昨年より大きく減少した。広報の不足を反省しなければならないが、受け入れ側としてはその質が充実していたと考えている。

- ・年間を通して参加し、学習支援だけでなくコーディネーター同様の動きをしてくれたボランティアの方がいた。
- ・調理ボランティアで固定したメンバーが定着してくれた。毎月必ず1・2・3回参加してくれるメンバーができ、シフト作りでも助けられている。
- ・子どもと年齢の近い高校生が参加してくれ、積極的に関わってくれて助かっている。意識も意欲も高く、持ち込み企画でも活躍してくれている。

12) 教育関係者に福祉の分野を理解していただく場になった

利用者の担任や管理職、活動に関心を持つ人、ボランティア、体験活動の講師などとしてたくさんの教育関係者に訪問していただけた。そして、ゆーすぽーとのねらいや活動内容について聞いていただくチャンスに恵まれた。

2回の報告会に多くの教育関係者に参加いただき、講師のお話、ゆーすぽーとの活動報告を聞いてもらって福祉への理解をしていただいた。

2. 報告会等の評価

1) ボランティア講座

日時：平成 30 年 11 月 30 日 9:30～11:00

場所：城西国際大学 G1-103

参加人数：24 名

①あなたのことを教えてください。

	男性	女性
性別	6	18

	20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	無回答
年齢	20	2		1			1

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	無回答
学年	23	0	1	0	0

	福祉総合学部	環境社会学部	無回答
学部	23	1	0

②今回の内容はいかがでしたか？

■法人の紹介と子どもを取り巻く現状と課題

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
8	15	0	0	1

<理由>

- ・子どもに関わる問題はあまり詳しくなかったため、初めて知ることが多かった。
- ・ニュースで見たりするよりも現実的で具体的な内容だった。
- ・見た目だけではその子の家庭状況までは分からないからもっとそれぞれの子をよく見てあげた方が良かったと思った。
- ・不憫な思いをされないようにラケットや服はいいものをとといったような母親の思いの話から、子どもの貧困は見えにくいものなのだと理解することができた。
- ・貧困家庭にある子どもが多くいると知れた。母子家庭や貧困家庭は本当には見た目ではわからない。
- ・子どもの気持ちを読み取ることは簡単ではなく、少しずつコミュニケーションをとっていかなければならないと思った。

- ・貧困の子どもが今たくさんいるという事実。自分たちが今普通に生活していることのありがたさ。今の生活が当たり前じゃない事、感謝して生活しないといけないと思った。

③「学び舎・ゆーすぽーと」の活動紹介

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
13	11	0	0	0

<理由>

- ・子どもの居場所をつくれるところとしてゆーすぽーとの存在を知れた。
- ・誰にでも協力できる活動だと思った。
- ・子どもたちが自分たちで進んで楽しみながら掃除などもする環境が自然に出来ているのがいいと思った。
- ・口に出すだけでなく、行動にできていてすごいなと思いました。子どもたちが気楽に話せる空間があるのはすごくいいと思った。
- ・東金に子どもの支援をしている場所があると知った。いつか、子どものためになるように協力したい。
- ・最初はあまり関心なかったが、説明を聞いていて参加したいなと思えたため。
- ・ただの学童や保護施設ではなく、学力向上や体験学習を大切にしているところがいいなと思った。
- ・自分にもできそうなことが幾つかあり、興味が湧いた。
- ・すごいことをやっているなと思った。お年寄り、障がい者、子ども、みんなで助け合って生活している。支え合って生活していて、写真だけだったけど見えていて、すごく楽しそうだった。若い人のパワーをお年寄りがもらって、お年寄りの笑顔を見て若い人もパワーをもっていると思った。自分の居場所、帰る場所があるってステキなことだと思った。

④今回のボランティア講座に参加されて、学び舎・ゆーすぽーとの活動や実際の現状を知りどう感じましたか。また、あなたは今後どのようなことができると思いましたか。

- ・貧困、虐待についての話を聞いて気になる部分があり、自分で調べて、仕事に勤めた時に子どもとかかわる機会があったら解決に少し近づけたらよいと思った。
- ・私は介護を専攻としているが、福祉にかかわる以上いつかどこかで子どもに関する問題にかかわることがあるかもしれないので、その解決ができるような姿勢でいたいと思う。そのためにはニュースを日ごろから見て自分なりの考えをしようと思う。
- ・貧困の子どもから障害者、お年寄りまで、声は幅広く支援されていてすごいと思いました。福祉の仕事は夢があるなと感じたし、福祉の仕事って大変だと思うけど、誰かを助けられることの喜びとか嬉しさってたくさんあるんだろうなって思った。福祉の知識を身に付け、将来福祉関係の仕事に就けるように頑張ろうと思った。本当に聞けて良かったと思いました。
- ・積極的にボランティアに参加して、話し相手になったり、調理等をお手伝いしたいと思った。
- ・高齢者の福祉だけを学ぶだけでなく、もっと地域の問題について学び社会に貢献したい
- ・気づき支えていけるようになりたいです。
- ・こういった活動があることを知り、今後も増やすことができれば子ども達の住みやすい社会

になると感じた。

- ・その子に対して、居場所の提供ができているところが良いと思った。相談や話ができる人が周りにいることは、とても心強い。話を聞いたり、一緒に活動することができればよいと思う。
- ・子ども達の居場所を作ることはすごく素敵だと思った。介護職の主な対象は老人なので、将来老人たちの住みやすい場所を作れたら良いと思う。

2) ボランティア体験・感想文

■原田珠希さん 東金高校1年（学習支援や話し相手になってくれた高校生ボランティア）
／ 報告会で発表

誰もが今の日本のイメージを問われれば、「豊かな国、日本」と答えるだろう。しかし、現実には、6人に1人の子供が貧困状態にあると言われている。この事実を知り、私は大きなショックを受けた。食事さえ満足に与えてもらえない子供がいる。そしてそのような子供達は、そうでない子供に比べて、虐待や自殺といった負の連鎖を背負っている可能性が高い。

私は福祉の分野に興味があった。特に、恵まれない子供たちの事情を知り、少しでも役に立ちたいという気持ちが強かった。そんな時に、ボランティアに関わることができると知り、是非参加したいと考えた。しかし、ボランティアをするのも初めてで、右も左もわからないため、まず学校で募集していた高校生対象のボランティア講座に申し込んだ。

ボランティア体験講座では、ボランティア活動をするにあたっての心得を学んだり、国際ボランティアや震災復興ボランティアなどの様々なボランティアがある事を学んだりした。そのボランティアの中にも私たちにもできる様な事がある事も学んだ。

数日後、社会福祉協議会からの連絡で、ゆーすぽーとの活動に参加できることになった。

私は小学1年生から中学3年生までの勉強を教えることになった。中でも教えるのが難しかったのは中3の子だった。理科はジェスチャーを交えて説明し、興味がわくように努めた。社会は私自身も苦手なため、一緒に勉強するつもりで教科書をめくっていった。

それから小学生の算数も大変だった。2年生に、時計の読み方を教えることになったのだが、長針と短針の説明が難しく、ちゃんと理解してくれたか不安になったので、ゲーム形式を取り入れた。カードを用意し、クイズ形式で時間を尋ねていくようにした。すると少し時間はかかったが、繰り返していくうちに読めるようになった。

そのあたりから、子供たちが自分の教えたことを理解してくれることに大きな喜びや励みを感じるようになり、自分なりに工夫して臨むようになった。中学生のために英語クイズをやっていると、小学生が途中から参加してきて珍回答が続出してしまい、みんなで大笑いしたりした。楽しくて活発な学習活動をした後は、子供たちも私もなんだかスッキリした気分になった。

勉強だけでなく、いろいろな楽しいイベントのお手伝いもさせてもらった。栗拾いで

は子供たちと中身がたっぷりつまった大きな栗をどっさり拾った。

栗の皮むきでは、まず私たちボランティアが2つに包丁で割り、それを子供たちにむいてもらったりした。黙々と1時間以上もむく真剣な姿はとても印象に残った。そして、その栗は栗ご飯になったり、デザートになったりして子供たちをさらに楽しませてくれた。

ゆーすぽーとに来ている子は家庭に事情があり、なかなかこういった体験ができないからか笑顔がとてもキラキラしていた。少しでも楽しんでもらえてよかったと思う。勉強だけでなく色々な体験をする事の必要性を知った。

このように食事や日常生活に関することもゆーすぽーとではとても大事にしている。食事の時はボランティアの人に感謝するのを忘れないように働きかけているし、食器は自分で片づけることになっている。食器が大量に出るので食器洗いは大仕事である。油のついたものを先に洗ってしまって、その後の洗い物が大変になってしまったりと、失敗も多々あるが、みんなで歌を歌ったり話をしたりしながら楽しんで終わらせられるよう努力した。子供にとって食事は体と心と両方の栄養を吸収する大切なものであると思った。サラダ嫌いの子には、自分も食べながら、「食べないと大きくなれないよ」と言ってみたりした。その子が食べてくれた時は、私もうれしくなった。これからも、その時その時のコミュニケーションを大切にしていこうと思った出来事だった。

木工教室は、夏休みの自由研究として出せる物を作るイベントの1つで、一人一つ花をかざるような小物や鍵などを掛ける所がついている小物置や棚のようなもののどれかを作った。

目の荒いやすりと細かいやすりを使い分けて使い木材の角をとったり、面をなめらかにしたりしてから釘で木材を固定していた。私は、釘を打ち時に木材を支えた。低学年の子は、釘をある程度打ってから固定する作業をやってもらうなどした。金づちを気に入った子が楽しそうに他の子の釘打ちもやろうとしていたのが面白かった。

「ボランティアはありがとうを求めてはいけない。」これはボランティア講座で学んだ言葉である。ボランティアをやっていると、時々ゆーすぽーとの子供たちが、「ありがとう。」と言ってくれる。そんな時は「こちらこそありがとう。」と、逆に感謝したくなる。自分にとって知らなかった子供の表情や笑顔、そして成長を知る喜びを考えると、ボランティアで私が得られたものは本当に大きかったと思う。

これからの体験を通して、将来は教員となり一生子供たちに関わっていきたくという気持ちが強くなった。これからもゆーすぽーとのボランティアに積極的に取り組み、お互いを成長させていきたいと考えている。

■久保田恵子さん（調理ボランティア）／ 中間報告会で発表

私がゆーすぽーとと関わるきっかけは、ボランティア募集のポスターを見たことです。そして、私が初めてゆーすぽーとに行ったのは、昨年の8月です。夏休みで、子供たちは木工作业で作品を作っていました。そこで、私は調理を手伝うことになりました。その日のメニューはカレーライスで、その時調理をしていた天野さんのお手伝いをさせていただきました。天野さんと気持ちが合って、その後ペアを組んで月2回ボランティアをしてい

ます。

ボランティアをされていて、よかったことがたくさんあります。まず、何より嬉しいことは、子供たちが食事を楽しみにしてくれてあまり残さず食べてくれることです。その次に良かったことは、料理が苦手な私が一緒にボランティアをしている天野さんに毎回調理実習のように教えていただいたことです。そのおかげで料理に対して以前よりは少し自信がついてきました。そして、一番良かったことは子供たちと夕食をとると「ありがとう」の言葉をもらい、充実感でいっぱいになります。このボランティアは子供たちのためでなく、自分のためだと思います。

私は、興味を示してくれたらと思い、いろいろなところでボランティアをしていることを話しています。実際に調理には行かないけど野菜を届けてくれる人もいます。これからもこのボランティアを続けて、さらに仲間を増やしていきたいと思っています。

3) 中間報告会

日 時：平成 30 年 11 月 21 日（水）13：00～15：00

場 所：東金市ふれあいセンター 和室

参加者：30 名（内、アンケート回答者 19 名）

①あなたのことを教えてください。

	男性	女性
性別	12	7

	20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	無回答
年代			2	5	4	7	1

	0～5 年	5～10 年	10～15 年	15～20 年	20 年以上	無回答
経験年数	6	1			6	6

	市町村	教育	福祉	その他	無回答
職種・分野	2	6	1	3	5

②今回の内容はいかがでしたか？

■胡内さんの基調講演

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
15	2			2

<理由>

- ・子どもの貧困がどういった課題につながるのか具体的な説明で大変わかりやすかった。市は事情を展開するにあたり、結果を求めることが多く、長期的な視点で見るべき子どもの貧困対策にはなかなか踏み切れないように率直に感じています。
- ・相対的な貧困率から地域のコミュニティとしての子ども食堂（みんな食堂）の在り方等、た

めになる話ばかりであった。自分は小学校教員であるが、“かくれた” 貧困児童は多くいる。そんな子どもたちに何かできるのか、学校として個人として考えてみたいと思った。

- ・日本は他国と比較しても子どもの貧困の割合が高いということを知った。「子ども食堂」という形ではなくとも、地域の人たちが集うコミュニティの場がたくさん作られ、子どもから高齢者までの居場所があることが大切だと感じた。
- ・経済大国であるはずのわが国が子どもの貧困対策に無策であることに驚いた。国がこのような状況の中、市レベルの対応も現状を考えた時、納得してしまう。政治を変えねば教育は変わらない。

■ ゆーすぽーと中間報告

大変参考に なった	参考になった	もう少し聞き たかった	物足りなかつ た	無回答
10	4			5

<理由>

- ・虐待を受けた児童は親との関係性が築けない、あるいはネグレクトの児童も多い。そういった児童は家庭での居場所や本来親から受けられる養育が不足している児童も多い。そういった児童にとっては大変居心地の良い場所、かけこみ寺のようになっていると思われる。
- ・本市の取り組みとして具体的内容を聞くことができてよかった。今まで以上にゆーすぽーとと学校が連携していければと思う。
- ・地域の子どもたちの安らぎの場になっていることがよくわかる提案でした。「おしゃべり・学習・食事の場」当たり前のように家庭にある環境の提供が素晴らしいと思いました。
- ・子どもの居場所として、食事の提供、学習支援などを週に 4 回も行うという素晴らしい活動であると感じた。また、年に 20 回以上も様々な体験活動が実施され、子どもの心も満たされているのだと思う。

③ 今回の報告会に参加されて、実際の現状等を知りどう感じましたか。また、今後子どもの貧困問題を解決していくにあたりどのようなことが必要だと思いましたか。

- ・貧困の連鎖を断つためにも、親だけでなく、子どもに関わる全ての大人が子どもをしっかりと育てていくことが大切だと思う。
- ・家庭ではなかなかできない経験を地域の中で経験して欲しい。おなかも心も満たして欲しいです。
- ・もしかしたら子どもの貧困という言葉は多くの人が蔑ろにしていると思います。では、解決するためにはどうするのかということについて考え出る人は少ないように思います。今日を機会にまず一歩、何かできるか考え、進んでいきたいと思っています。ありがとうございます。
- ・ボランティアのかたのお話に感動しました。自分のために・・・楽しみ・・・そんな気持ちで取り組む貧困問題。小さな一歩が社会の変化に！ありがとうございました。
- ・貧困問題を解決するのは、とても難しいことだと思う。行政、民間、個人が協力して、少しずつやれることをやっていくしたないのかなと思います。
- ・今日の講演内容のようなことの理解を広げていくが重要であり地域で支えていく仕組みが必要である。子どもの貧困対策への財源確保の重要性への理解、消費税率アップによる財源の

適正な使い方。

- ・ 一対一の対応が必要な子どもが多い中、「音読を聞くだけ」などレベルを下げて声掛けをしたかどうかと思いました。
- ・ 課題が多すぎる気がします。また、サポートをする分野についても広げすぎても狭すぎてもいけないような感じがして、状況に応じた対応ができるとよいと思う。
- ・ 一緒に活動していけないかと良いと思いました。今日はありがとうございました。
- ・ 子どもには、責任はなく、だれもが同じように心が満たされ、生活や学習の保証ができるよう、私達でも何かできるか考えていく必要があることを強く感じました。
- ・ 市として貧困を抱える子どもたちに対してどう対応していくか、市が中心となり考えていただきたいと考えます。その中で、ゆーすぽーとが学校がその他機関が何をするか、何ができるか考えていくことが今後継続的に支援していける近道だと思います。

4) 事業報告会

実施日：平成 31 年 3 月 6 日（水）

場所：東金文化会館

参加者数：77 名（内アンケート提出者は 63 名）

回収率：81.8%

②あなたのことを教えてください。

性別

	男性	女性
性別	20	43

年代

	20 代 未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代 以上
年齢	1	1	4	6	12	39

③今回の内容はいかがでしたか？

■湯浅さんの基調講演

大変参考 になった	参考にな った	もう少し 聞きた かった	物足り なかった	無回答
39	9	7	1	3

<理由>

- ・ 「地域的養護」という言葉をはじめて知りました。大学で児童福祉を学びましたが、活かしてない今です。社会を通して、活かしたり、プライベートでも参加することができることに気がつき、実践していきたいと思いました。
- ・ 貧困問題も含め対処で満足するのではなく、背景を感じる視点が必要だと思った。その結果が予防になるとも感じた。
- ・ 支援とは固い物と考えていました。学習など自分で教えられないと思ったが、教えるのでは

なく、居るだけで支援になると思いました。子ども達を教えるのではなく、その場の状況を考慮していきたい。

- ・貧困問題の“これまで”を聞きたかった。
- ・ユーモアを交えながら関わりつなぐの大切さについてお話しいただいた。手の届く範囲にその選択肢が用意されているか否か、サザエさんの話が印象に残りました。
- ・身近なところから気づきが大切だと思う。
- ・「にぎわい」からはじかれる子どもをすくいたい。自分のことから。
- ・学童クラブで小学生を過ごしている時のことでどう対応したのかがよくわかった気がします。
「居るだけ支援」子どもたちの自主性活動の意欲を高めるには「居るだけ支援」が良いということに「目からうろこです」いっぱい学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・短い時間でしたので無理かと思いますが、もっと具体的な例を聞くことができると良かったと思います。
- ・貧困層の分類、それに対する対応等、現状の問題の整理がされており、大変参考になった。
- ・できる事をできる人ができる事から始めやり続けていくこと、改めて“よし”と思いました。
- ・日本の人口図を見て世の中でいう「普通」の人達の数が思っていたより少なかった。様々な立場の人が助け合っていくような世の中にしていかなければと思いました。子ども時代、どちらかという黄色信号の家庭で育ちましたが、色々な人の関りがあり今があることを知った。自分ができる事をして行きたいと思った
- ・わかりやすく、聞きやすく、理解することができました。
- ・子どもの貧困（7人に1人）についての背景がよくわかりました。見えない部分をどう周りの大人たちが気づいて支えていくのか。改めて考えることができました。誰が行ってもよい場所（環境）づくりの必要性を学びました。「できる事をできる人ができる事からやる」を私自身がしっかり心にとめていかなければと思いました。
- ・内容が非常に分かりやすかったです。もう一度お話を聞きたいと思いました。
- ・自分の考えが、どうなのか迷いがあったのだが（周囲の人たちと考えが違っていたところが多かった）方向性が同じであったので行動する力を頂けました。
- ・貧困について黄色信号、赤信号という考え方、とても分かりやすかったです。
- ・貧困の連鎖について学ぶことができました。学習支援は居るだけ支援、必ずできる事があるという言葉は心強いです。
- ・解りやすく楽しく聞けました。老人問題機能することがあり、考えさせられました。できるだけ、できる事をしたいと思いました。
- ・家族を支援することは家庭力を下げる事にはならないという言葉が印象に残りました。子どもを地域で支える事、自分ができる事は何かと考えてみたいと思います。
- ・「居るだけ支援」の言葉が耳に残りました。
- ・最近の虐待のニュースを見て、子育てから遠く離れた場所として事実を知りたいと思い参加しました。子どもだけの問題ではないと痛感しました。
- ・話が具体的で分かりやすかった。幅広い経験をされていると思いますので、もっといろいろな話を聞きたいと思いました。
- ・世の中全体の見方を変えることができた。昔の会社の仕組みと大きく変わってきている。だから今、誰もが誰かの支えるという見方、考え方をもちようしていきたい。私人としてできる事から取り掛かっていくことを心掛けたいと思った。まずは、居るだけ支援を試みよう

かな。

- ・とても分かりやすく、楽しい講演会でした。何か自分にできる事はないかと考えてしまいました。湯浅さんの話からそんなに難しく考える事でなく、自分のできる事をすればよいと背中を押されました。“居るだけ支援”ならと安心しました。
- ・貧困の理由や対策などわかりやすかった。なかなかはじめの一步が踏み出せないが自分でもできそうなことがありますので、機会を捉えて協力していきたいと思うと感じた。
- ・湯浅さんの話分かりやすかったです。
- ・日本の現状をわかりやすくお話してくださりととても参考になりました。
- ・日頃の身近な問題を取り上げて説明していただいたので分かりやすかったです。
- ・かみ砕いて説明されてよくわかりました。
- ・子ども食堂に関わる意義を知り、社会貢献への一步を踏み出すきっかけになりそうです。
- ・特別なことではなく人と人とのふれあい優しく温かい「にぎわい」から始める、地域に創る居場所（子ども食堂）づくり
- ・「赤信号」にない関わり、大変重要
- ・用意して頂いた資料全部の説明ができなかった様子だったので、あと一時間ほどあってもよかったと思います。湯浅さんのたとえ方がわかりやすかったです。
- ・具体的でとてもわかりやすい話でよかった。
- ・貧困問題も含め、対処で満足するのではなく、背景を感じる視点が必要だと思った。その結果が予防になると感じた。
- ・わかりやすかった。
- ・支援とは、堅い物と考えていた。学習など自分で教えられないと思ったが、教えるだけでなく、いるだけで支援になると思いました。子どもたちを教えるのではなく、その場の状況を考慮していきたい。
- ・「貧困が見えない」ことへの理解が深まった。赤信号にさせない取り組みが大切であることが理解できた。
- ・黄信号の子ども達をいかに赤にさせない様に見守る力を地域で持つ事が大切無関心が一番ダメ。
- ・出来る事を出来るところから気負わず継続できること、関心をよせることが大切と知った。
- ・子ども食堂という活動に、多世代（年齢問わず）を受け入れる事に大きな意味があるということに気付かされた。
- ・貧困問題、子ども食堂の言葉の意味についてはニュース等で知る程度でした。今回の湯浅さんの話で目からウロコの気持ちになりました。市内に住むものとして知らなくて恥ずかしい気持ちになりました。
- ・実践に基づくわかりやすいお話であり、参考になりました。
- ・近所付き合いも同じで、昔の礼節がない気がする。適度な気持ちの持ち方が難しい
- ・全国での取り組みと広がり分かり、素晴らしいなと思いました。とりわけ企業が動いてくださると、成果も大きいと地域ごとの関心が広まる事を願っています。
- ・私が担当している方にも、貧困家庭や障害があるけれど、なかなか社会に理解してもらえず、独居で細々と暮らしている方などがいるので、自分の立場で何ができるかを常に考え、支援していきたいと思った。
- ・やる気を起こさせてくれました。できれば参加していきたいという気にさせてくれました。

- ・わかりやすい具体的な例が参考になった。学習支援の場にいるだけで支援になるなどは大いに励まされる。誰でも社会の一員として身近で活動できる。
- ・次々と数々の体験談に関心深く拝聴致しました。お話を聞き入り充実したひと時を過ごさせていただきありがとうございました。
- ・人とのつながりが心を豊かにすることが分かった。
- ・黄信号のうちに普通の大人が関わっていくことの重要性がよく理解できた。児童養護施設の退園生が社会に出てつまずかないようにボランティアをしているが、自分たちの活動が役立っているのか心もとないこともあった。お話を伺い、ちくわ、活動を続ける自信が持てた。
- ・「一つの行動を起こすのに難しく考える必要はない」という考え方で取り組みやすくなる。具体的にわかりやすい話で参考になった。
- ・新しい切り口からご説明頂けて分かりやすかったです。
- ・具体的な例を挙げてのお話で、とても分かりやすかった

■学び舎・ゆーすぽーと活動報告会

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
29	20	5	1	8

<理由>

- ・社会福祉振興助成事業とのことですが、助成が受けられなくなった場合は、どのような継続がなされるのか心配しております。
- ・関わる人たちがたくさんいらっしゃることを知った。計画をたて、活動されている事、また運営される方達も共に楽しみながらされている様子が伝わった。
- ・存在は知っていたが具体的な活動まで聞いてボランティアに参加したいと思いました。
- ・過日、介護職の方から、ひとり親世帯の子どもが、食事は1日3回あるということを知らない子どもがいると聞きました。1日3食飯を食べれば非行が無くなる。となればいいですね。
- ・学び舎・ゆーすぽーとの存在。そして素晴らしい活動内容を知ることができました。子ども達がみんなに支えられ、貴重な体験、学びをさせていただいていることに感謝あるのみです。
- ・こういう活動を行っていることは知らなかった。
- ・活動内容やボランティアの発表
- ・学童クラブの構成は1年生～5年生（6年生はいない）で異年齢の中での人間関係をうまく利用（活用？）できると感じました。
- ・もっと具体例があると良いと思った。
- ・通う子がいるということを知ることができた。
- ・地域的養護の実績現場を知れてよかったです。活動報告から、今ここに手が足りないなどのSOSを出してもらおうと協力できることを探せると感じました。
- ・東金にこんなにもきちんとした組織があることを知り、ありがたく思いました。
- ・この地域でこの様な活動をしている所があると知って、うれしく思っています。貧困など困難な状況の連鎖を防ぎ支援する取り組みに賛同します。機会があれば微力ですが、お手伝いしたいです。高校生の子の体験、気づいた事の発表も良かった。
- ・子ども達への支援を広げ、サテライトも開設されたことを知りました。様々な体験、経験ので

きる企画がとても多く、子ども達の将来へつながる活動なのだと実感しました。

- ・昨年度に引き続き、2 回目の活動報告を聞かせていただきました。体制が確立され、また 8 月にサテライトも開設され、子ども達が自立するための支援の場所がさらに充実していることを感じました。子ども達が様々な体験活動や人との関りを通じて学び、成長している姿が、お話や写真からわかり、改めてすばらしい活動（事業）をされていることがわかりました。「学び舎・ゆーすぽーと」は、子ども達が安心して居られる場所であり、自分のこれからを考える場所となっています。
- ・高校生ボランティアさんの作文が良かったです。
- ・放課後等デイでパートをしていますので、他の事業所の取り組みを知ることができ良かったです。
- ・学習支援、子ども食堂、大人との交流を巻き込んで交流する姿が目に見えるようでした。藤田先生には子どもが東小学校でお世話になりました。先生を中心にあたたかい活動が広がっていると感じれた。
- ・費用（教材費含む）をどうしているのか。
- ・学習だけでなく、食事の提供や体験活動等、子どもにとってとてもありがたい支援である。家庭だけでなく子どもの居場所となっていることがよくわかりました。
- ・自分が手伝える時間があると思った。
- ・ボランティア未体験なので、具体的な活動を知ることができた。
- ・食事の提供だけでなく、いろいろな体験をしているのを知り、びっくりしました。ご苦労も多いと思います。
- ・高校生の体験発表からゆーすぽーとのすばらしさ、今、ここに必要な事業であることを強く感じた。「ありがとう」を求めるな。「こちらこそありがとう」心が温まる言葉である。
- ・いろいろ事情があり、生活面等で苦労している子どもたちがいると思うのです。ゆーすぽーとという活動により救われていると思った。
- ・素晴らしい活動に感心するばかりです。何か少しでもお役に立てることはないかと思えるようになりました。
- ・具体的で分かりやすかったです。
- ・「ゆーすぽーと」の取り組みやそこで過ごす子ども達の様子が見に浮かびました。ここでの体験が子ども達にとって将来いい影響を与えてくれると強く感じました。
- ・子ども達が充実した生活を送られている等に感じました。体験学習の内容が豊富である。
- ・一人ひとりにきめ細かい対応をされていることがよくわかりました。
- ・豊かな活動を通じて「子どもの感性」に直接触れてみたい。
- ・一緒に学ぶことを通じて理解の深さ、笑顔に体と心の栄養、互いにありがとうと言える関係性がいいですね。
- ・作文を紹介して頂きたかった。
- ・子ども達の活動の様子がよくわかってよかった。
- ・事業内容を理解することができた。ふくおかの家（サテライト）の一員として子どもの支援に協力していきたい。また、母を支援している立場であり、母は母らしく子どもたちの面倒も見ていきたいと思います。
- ・自分たちが実践している事と共有する事があるのが良かった。
- ・社会福祉振興助成事業とのことですが、助成が受けられなくなった場合はどのように継続す

るか心配です。

- ・関わる人たちがたくさんいらっしゃる事を知った。計画を立て、活動されている事、また、運営される方たちも共に楽しみながらされている様子が伝わった。
- ・存在は知っていたが、具体的な活動まで聞けて、ボランティア等にも参加したいと思いました。
- ・今回は「知る事」で現状を少し理解できたと思います。
- ・身近な所でこのような活動をされていることを知り、大変参考になりました。
- ・東金市は考え方が少しゆっくりなのでこんな取り組みをしているとは思いませんでした。もう少しボランティアが増えるといいですね。
- ・子ども達に多様な経験をさせて下さること、地域の施設のご協力に有難いことだと思いました。
- ・ゆーすぽーとの活動内容を具体的に知ることができた。思っていた以上に利用しているお子さんが多いと感じた。高校生のボランティアさんの発表が良かった。
- ・様子がよくわかりました。気軽によってサポートしてみたいと思った。
- ・社会体験活動の大切さを改めて思い知りました。高校生ボランティア、原田さんの報告発表、ありがとうございました。今後のご活躍を期待いたします。頑張ってください。
(東金高校 卒業生)
- ・来所している子どもの心身の変化やゆーすぽーとをどのように心に位置付けているのか等を知りたい。自分たちを「黄信号」と認めて来所している事へのスタッフの対応や困難さなども伺いたかった。
- ・「ゆーすぽーと」の話は聞いていたが、具体的内容、活動は知らなかったなので、よく理解できました
- ・子どもたちにとっても、支える方にとっても、得るものの多い場所であることが分かりました。藤田先生がんばれ！
- ・少し説明が長かったもう少しコンパクトにまとめた方がよかった。

④今回の報告会に参加されて、実際の現状等を知りどう感じましたか。また、今後子どもの貧困問題を解決していくにあたりどのようなことが必要だと思いましたか。

<意見>

- ・議員の立場として考えるならば、子どもの貧困問題を解決していくには、行政、教育、民生委員、各種機関の連携をとり、社会からはじかれるこどもを作らないこと。議員活動を通して実践していきたい。
- ・まず関心を持つこと、そして他人事としてではなく、自分のできることをできる時にできる範囲で行っていく事が大切なのかなと思いました。また、貧困家庭の子ども達への支援と同時に、それを取り巻く子ども達の思いやり、やさしさ等、子ども達の心を育てていくことも大切だと思いました。
- ・積極的に子どもたちの心の育ちに支援されている様子に感動しました。支援される人達の数が増えることが望ましいと思いますが、できるだけ行政の支援を大きくされていけるとよいと思います。
- ・他の地区にもサポートセンターができれば。
- ・子どもの体験の場、地域の交流にたいして一人ひとりがどうかかわっていくかが大切だと思

った。自分ができる事からはじめたいと思った。

- ・湯浅先生の話にもありました。自分でできることをすることから始める。大きなことではなく、地域のコミュニティが大切であると感じた。高校生のボランティア活動にも大きな拍手を送ります。もっともっと広がって行くことを期待お祈りします。「何を食べるのかではなく誰と食べるか」が大切な気がします。
- ・地域の人々の努力、頑張りももちろんですが、根本のところ、政治のあり方を考えなければどうにもならなくなっているのではないのでしょうか。税金の使い方この組み換えが是非とも必要。ボランティア大切ですが、入っただけでできますか。
- ・それぞれの主体が、できる事をする必要があると感じるが、その共通認識をいかに広げてい行くかが課題とも感じる。
- ・身近なところから気づいていこうと心掛けることが大切だと思いました。誰でも来られる所であることが大事なんだと理解しました。
- ・大網でもつながり（出番と居場所）づくりやっていますし、進化させようと思いました。
- ・地域に住む人たち同士での関りや、集う場所が少なくなっている。人間関係が薄くなってきている。周りに関心を持ちコミュニケーションをとることが大切と思った。様々な人たちが認めあい、受け入れ合う風土。子ども達が相談するのは勇気がいる事、受け入れ、必要であれば適切なつなぐ環境。
- ・普通の自分に自信はありませんが、何かできる事があるのかもしれない。そう考えながら周りを見回していきたいと思います。地域で関り、つながれることを考えてみたいと思いました。
- ・まだまだ勉強不足を感じました。子ども達一人ひとりの幸せのために関係機関の皆様とつながっていくことの大切さを痛感しました。本日はありがとうございました。
- ・市内の他の地域にも広げていきたいと思いました。（送迎サービスが必要か？）
- ・今回の2回目の報告会を聞く機会でした。家族的な運営が素晴らしい。子ども達の生活の基盤を整える活動です。将来的にも生きる力になると思います。貧困の切り口からみた解決が必要かと。すべてつながっているのです。
- ・子どもの生活圏はとても狭いと思います。身近でかつ気軽に寄れる、話ができる場所がもっともっと増えるといいです。
- ・子どもの貧困について根が深く、どこから、、と思うことが多くありますが、一つずつと思いました。
- ・もう少し児童館が機能すればいいのに！と思いました。できる時にお手伝いいたします。
- ・こんな質問もなんですが、親のお金の使い方が上手くできない結果、子どもが貧困を強いられるケースはないのかなと思います。その場合、親はゆーすぽーとに甘えてしまうのではないかと思います。（生保で親がパチンコに投資する場合）親への関りはどのようになっているのかなと思います。（経済観念の指導は生保のケースワーカーさんがなさるでしょうけど）まず、親の自立させる事の指導も必要と思います。
- ・送迎ができる家庭や自力登所できる子どもはいいが、ゆーすぽーとのような居場所に通えない子どももいる。地域でこのような活動が広まればと感じます。
- ・地域力を上げることが、貧困問題を重症化しないことだと思った。
- ・湯浅さんの講演を拝聴して現状を少し知ることができ、又、“ゆーすぽーと”の報告を伺って具体的な活動を知ることもしました。貧困問題を解決するために何ができるのかまだわか

りませんが、真剣に考えていこうと思います。貴重な機会を有難うございます。

- ・気兼ねなく集まれるところの必要性を大きく感じました。食堂での体験が「身分の家」を相対化するきっかけとなる。基本的な生活体験を養う場も気になる。食事支援と学習支援はどちらが欠けても効果は半減となるだろう。ゆーすぽーとが無くならないことを願う。
- ・湯浅さんの話がされていたように黄色信号の現状がある事実を知り、それぞれの大人ができる事をしていくことが、要されると思いました。普通に生活していると知らないことが多すぎると思うので、何かとより多くの人に伝えなければと思います。
- ・先生のお話のように貧困だと分からないケースが多いと思います。6人に1人と聞いてびっくりしました。地域での見守りが大切ではないでしょうか。子ども食堂のような場があるのもっといいと思います。
- ・自分にできる事を少しずつ頑張ります。
- ・「学び舎」のような取り組みが必要と思いました。
- ・素晴らしい支援活動している様子がよくわかりました。活躍されている先生、本当にご苦労様です。
- ・黄色信号の子ども達を民間の力で支えていくことが本当に必要だと思います。以前調理ボランティアをさせていただきましたが、“いだけ支援”でもよければ今後もやらせていただきたいと思います。
- ・私たち学友会は黄信号～緑信号の間の子どもの対象にしていますが、学習力の貧困が目に見える子も経済的に貧困でない親が学習塾にやっしまい、子供は塾で再びはじかれるのではないかと心配です。
- ・貧困問題に対して、子ども達に色々な活躍のため経験を積ませて、力をつけさせていきたいと思います。
- ・やはり地域交流が必要だと思いました。
- ・思っていた以上に子どもの貧困問題は大きいことが分かった。とにかくやることからやっていくことが必要だとおもう。
- ・基調講演の趣旨 目指すものと、現状（利用者限定）のギャップの解消
- ・貧困問題を解決する手段はなかなか難しく思われる。小学校との連携も必要だが、親の立場を理解しなければならないし、プライバシー保護の問題もあり、現状を知るのも難しく思います。隠れている貧困の子どもたちを見つけ、支援を重ねていきたいと思いました。
- ・地域でつながりを持つ事を追求していきたい。対応する人々の横のつながりの構築
- ・「ゆーすぽーと」に来られない子ども達、本当は来てほしい子ども達がまだまだいるのではないかな。
- ・自分ができることとできる時にやっていく、皆がそういう意識を持つ事が必要。
- ・安心して過ごせる居場所が必要。地域の中で子どもたちが育っていくことが必要
- ・全ては救えないかもしれませんが、一人でも多くの子ども達を救えるのは大人だなと改めて思いました。
- ・東金市地域の現状を発信できる機会を持てるようになるのも必要ではないでしょうか。大変な家庭に対しても相談できる仕組み作りも大切かと思いました。
- ・積極的に子ども達の心の育ちに支援されている様子に感動しました。支援される人たちの数が増えることが望ましいと思います。できるだけ行政の援助を大きくされていけると良いと思います。

- ・ともかく、このあたりにも子どもの救いがあったのだということを知りました。大人の職が確立しないと子どもは幸せになれないと思います。安定した収入につながる職を提供してほしいと思います。昔は児童館が活躍していたように思いますが、子どもが幸せになるには大人の心の豊かさが必要ですね。
- ・もっともっと地域の関心を引き起こす事、気軽にボランティア参加してもらえるように願っています。
- ・福祉だけでなく、社会全体で考え、取り組んでいく問題。個人的には、保育園の無償化は特に必要ないので、その分貧困や福祉の方に国のお金を使ってほしいと思う。
- ・行政以上に地域での活動が重要
- ・活動に参加することは難しくない。という事例が伝わると良いので、もっと知らせてほしいです。地域とのつながりがあってこそその安心生活。当事者でなくても他人事ではないので知らなければいけないと思います。
- ・家事を済ませてから、来るというお子さんのこと、驚きました。「学び舎ゆーすぽーと」の事を今回初めて知り大変参考になりました。
- ・色々な体験や人とのつながりができる場所が必要でと思った。
- ・目の前で困っている子どもへの「対症療法」と社会制度の根本的な問題解決を並行して実施していかなければならない。手弁当でこのような活動を始める大人が全国に大勢いることは頼もしいが、行政に更に努力を期待したい。
- ・これまで、自分自身が目を向けていない分野であったので、はじめて知ることがたくさんあった。地域社会全体で身近な人々に目を向け、できる事を出来る人が少しずつやっていくことが必要であるとかんじた。
- ・地域で支える事の大切さを痛感致しました。
- ・子どもの貧困問題を解決するためには、地域が果たす役割が大切であると思った。ひとりひとりの力は小さくても、多くの力が集まれば大きな力になると感じた。

3. 今後に向けた課題

1) 活動時間の見直し

コーディネーターやボランティアの人材を確保するために、夜遅くの活動を控えてきたが、中学校で部活動に加入している子には、学習時間が限られている現状があるので、みなさんの理解をいただいて活動終了時刻を見直さなければならぬと考えている。

シングルマザーの人達への支援の側面からも迎え時刻等に配慮する必要があると考えている。

2) 体系的な学習の必要性

複数の子どもの中に不登校を経験していたり、今現在不登校状態になったりしている子がいて、教科の単元がすっぽり抜けている子がいる。学校復帰を後押しするためには、学力をつけ自信をもたせる必要があり、そのための学習支援が求められる。限られた人材の中では公文や学研などの塾が対応しているような「スローステップ」な教材が有効だと思われるので、そうした教材探しと購入の検討が求められている。

3) 関係機関との連携時間の確保

関係機関からたくさんの利用者を繋げてもらっているが、どちらも多忙で利用者の情報が十分共有されていないところがあり、指導上配慮しなければならないところが明確になっていない。今後は、その時間をしっかり確保して指導の有効性を高めたい。

4) 広報の活発化

昨年度の課題でもあったが、利用対象者に条件を付けているために、市の広報紙やマスコミ等の手段を使って広報することが難しい。そのため地域の皆さんに広く活動の実態を伝えにくい状況にある。そうしたこともあって、支援者の広がりが見られなくなってきたので、広報の仕方を工夫していきたい。

5) 親支援の拡大

時間延長や相談の充実などわずかではあるが親支援が拡大してきている。しかし、極めて厳しい環境下にある人が多かったり個別にニーズが違ったりでまだまだ不十分である。それぞれの親のニーズを受け止めて、より効果的な支援の在り方を考えていきたい。

6) ニーズの広域化・送迎援助の必要性

利用対象者の地域は限定していないが、家庭での自力通所をお願いしているのに、利用範囲は限られている。ニーズは幅広くあると思われるし、現在通所している子の中にも、家族の都合でわずかな回数しか通所できていない子がいる。家庭の状況や学校への通学状況など考慮すると、ここでの活動が大変有効だと思われるので、通所支援ができれば、喜ばれると思う。

7) ひきこもり状態の子へのサポート

登録している子の中にひきこもり状態になっている子がいる。学校や適応指導教室、こゆーすぽーとも通えず、大変心配している。電話や手紙ではこゆーすぽーとの体験活動などの誘いはしているが、反応が鈍い。学校や不登校対策教員など関係機関と連携して必要なサポートができれば良いと考える。

8) 調理ボランティアのスタッフ化

開設以来、食事提供の調理をボランティアの皆さんに依存してきた。1年目は70%以上の支援をいただいたが、今年度は38%だった。広報不足は否めなく、今後は活発に情報発信をしていきたい。コーディネーターが子どもに関わりながらの食事作りは大変有効であるのでその場は確保しておきたいものの、回数が多くなると体力的になかなかきつい現状があるので、多少なりとも有償ボランティアの固定化を検討していきたい。

9) 高校生のアルバイト

高校受験も卒業式も終わって一息ついた中学3年生たちが、その後も毎回通所してきて後輩たちに学習支援をしてくれた。気心が知れた先輩に教わる後輩たちは、喜んで教わっていた。何の遠慮もなく繰り返し質問してくる後輩に対して、丁寧に時には叱責しながら教えていた。普段の活動の中でもよく行われていた情景であったが、先輩たちもそれぞれ学習しなければならない立場だったので、十分な時間を割いての関わりは今回が初めてだったが、両者にとってとても良い場面だと感じた。

アルバイトをしなければならない境遇の子たちであるし、5人の中の2人は将来教職を目指しているので経済的な面と経験の場の提供という面でアルバイトの可能性を検討したい。ゆーすぽーとの子どもたちにとっては、ロールモデルにもなる憧れの対象でもあるので大歓迎だと思われる。

10) 支援者への活動報告

2回のゆーすぽーと活動報告会を開催してきたが、そこに参加できる支援者は少ない。昨年も課題だったが何らかの形で、支援者に活動の実態や子どもたちの声をお伝えしていきたい。

第3章 新たなニーズ

1) 実践を通じてみえてきたこと

2年間の取り組みを通じて、感じることは当法人が実施しているような多機能な支援や開設日数を民間レベルで実施しているところがないということ、また、今般求められている「包括的支援」を進めようと考えた時に、当法人が実施しているような常設の多機能拠点が必要であるということである。

昨年度の申請書でもふれているが、家庭の経済的な困窮のみならず、ネグレクトをはじめとした児童虐待のケースや障がいや病気で十分に子育てができない親と家庭が増加の一途にあり、東金市を管轄する東上総児童相談所内の虐待件数をみると、東金市は、県内上位となる2位を常にキープしている状況である。当然、要対協（要保護児童対策地域協議会）で扱う件数も多く、非公開情報のため、実際の数字は不明であるが、東金市担当課（子ども課）の話よれば、前年度比の1.5倍増加という状況である。また、平成29年度に市内5歳児の保護者及び小学5年生、中学2年生の子どもと保護者へのアンケート調査では、困窮度の中央値以下の世帯が4割いると共に、虐待につながりかねない行為を行っている世帯が一定数いる実態も見えてきた。

この状況から、子育て環境が十分に整わない家庭や親を持つ子どもの多機能な支援は欠かせない状況であると感じている。

一方で、距離や家庭内の事情・メンタル的なことから、拠点に通って来れない子ども達の状況もみえてきた。現状の機能では、子どもが自力で通ってこれる子どもが、暗黙の前提になっており、必要な子どもに必要な支援が届けられない状況にある。

そのため、アウトリーチや送迎など出向く支援の強化が急務であると感じている。また、児童相談所の一時保護手前の地域での保護機能も必要であると感じる。さらに、既存の高齢者や障害関係事業所でも、そうした子どもや家庭の支援を行う機能も必要であると感じている。

2) 次年度の取り組み

「学び舎・ゆーすぽーと」本体としては、前述の課題でもあるように「アウトリーチ」や「送迎」機能も備え、より包括的なサポートを強化していきたいと考えている。また、その役割と機能をより強化していくための人材の強化や運営体制づくり、関係機関とのネットワークづくりを、過去2年の実績をもとにさらに進化できるよう取り組む。

サテライトにおいては、サテライトという機能を持ちつつも、強みである「保護・養護」的な機能と共生型サービスの強みを生かした、包括支援を実施していくと共に、困窮や虐待等で苦しむ子どもの早期発見と保護者や家族を含めた相談支援の機能を高めていきたいと考えている。

終章 まとめ

当法人は、平成 29 年度、平成 30 年度の 2 か年にわたり、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業の助成を受け、生活困窮状態にある子どもや子育てが困難な家庭の子どもを中心に「学習支援、社会体験、居場所づくり、食事提供、相談支援」など多機能な支援を、ニーズに基づいて段階的に拡張し実施してきた。また、開所も本体（学び舎・ゆーすぽーと）とサテライト合わせて、週 6 日以上となった。

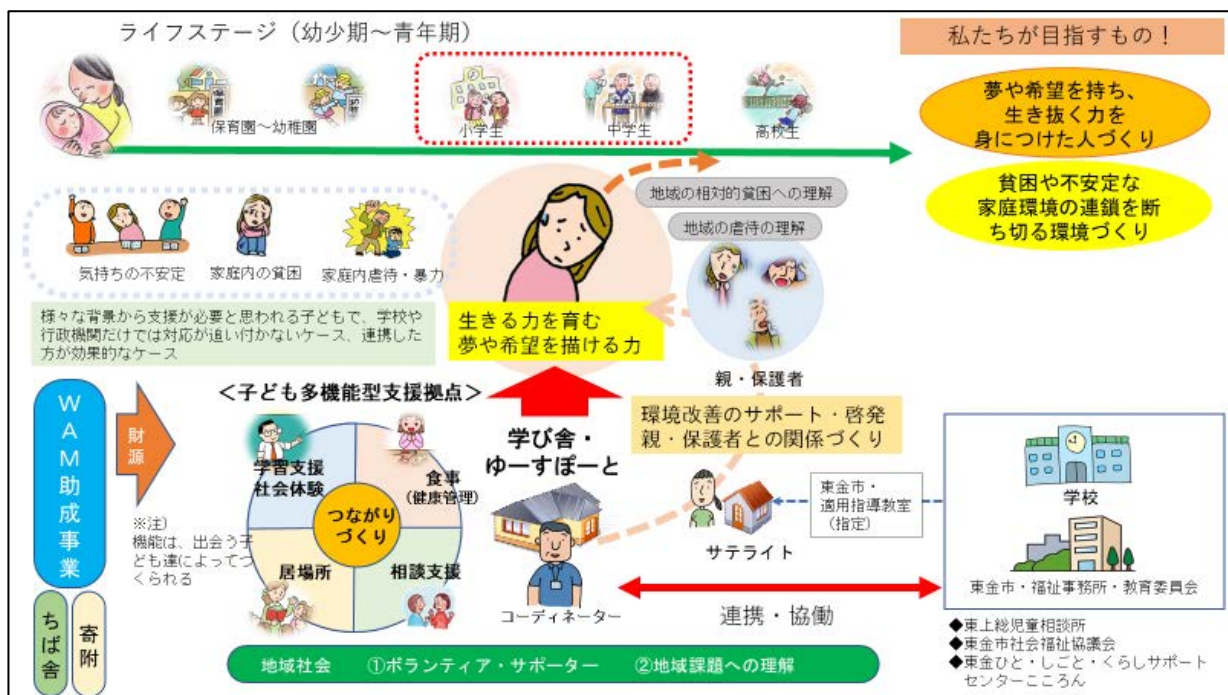
子どもへの学習支援では、元教員を中心に進めながらも、時に現役の教員もボランティアで協力いただいた。また、相談支援や居場所、体験学習、食事提供では、元教員や保育士が中心になりながらも、地域の多様なボランティア等に協力を頂き実施している。

支援を通じて、過酷な状況に置かれている子どもや家庭の理解、支援の輪がの広がりを感じている。

サテライトでは、要介護の祖母と精神障害の母親と不登校の 3 姉妹の支援に取り組んでいる。学校や教育委員会との連携のもと、不登校の改善に取りくむと共に、子どもの生活の安定を図るため、祖母とその支援に関わる地域包括支援センターと調整したり、母親とその支援に関わる障害の相談支援事業所の相談員と調整したり、市役所の子ども課や児童相談所も含めた会議等も行い 3 姉妹の自宅や地域での暮らしのサポートをしてきた。約半年の関わりで、3 姉妹の不登校が徐々に改善され、家庭内の不安定さ（食事、生活スタイル、祖母・母・子どもの関係性等）も若干改善されてきている状況である。

また、こうした支援を通じて教育委員会や学校、関係機関との連携や支援の方向性の調和が図れたことは大きな成果であると感じている。

さらに、小規模多機能型居宅介護事業所を基本とする共生型サービスと連携・協働した支援の実践を示すことができたことは、他の事業所及び地域にも活かせるものと考えている。



一方で、前年度にも示している（以下）とおり、この包括的事業の維持・継続できる、さらには、他地域や団体が事業として参入しやすい制度や仕組みは見当たらない。

公的な制度や助成制度は、対象や問題・課題により縦割りのものが多く、複合的な問題・課題を抱える子どもやその家庭に対する支援を考えた時に、包括的にかつ継続的に支える仕組みや補助する制度が見当たらない。

「ゆーすぽーと」においても、「居場所」「学習支援」「社会体験」等の3つ活動にまたがるだけでも、それを包括的に補助仕組み、助成する仕組みはない。生活困窮者自立支援法に基づく「学習支援」は、一部学習支援という観点では引かかるがそれ以外は対象とならない。また市町村指定事業であるために、助成を受け実施する場合においては、市内に子ども達に平等な支援を求められる。また、広く・わかりやすく・公平に実施する仕組みをとることにより、子ども達の間で、「貧困世帯の子ども」というレッテルを公にしてしまうことになってしまう。

では、福祉ではなく教育や子育て関係の補助事業の方ではどうか？個人差はあるが、生活困窮世帯の子どもが抱える課題は大きく、教育や子育て関係分野でのより専門的な視点やかかわり関係機関との連携が必要であること、個別的な対応をどこまで実施できるか？という点でも課題は多い。

一方、この活動を寄附や民間資金によって支えることはどうか？画一化した支援に縛られない分、子どもやその家庭の実態に合わせた支援がしやすいと考えるが、寄付や民間資金の確保には、寄付者や民間資金提供者への発展的な説明責任の仕組みや強力なメッセージが必要となるため実施する団体及び担当者の高いスキルが求められる。

私たちが支援を通じて出会った子ども達やその保護者・家族の状況は、その人達特有のものであるが、東金特有のものではなく、どの地域でも普通に起きていること、また誰しもの暮らしの隣合わせにあるものである。

そう考えると、生きづらさを抱えている就学後の子ども達や家庭を支える拠点の整備又は既存の介護や福祉事業所が、共生型サービスのひとつとして提供できる仕組みが必要なのではないかと考える。

一方で、公共機関ではない当法人では、上述のような市内全域に平等なシステムを構築することは難しい。また、子どもを取り巻く環境を、東金市（こども課や社会福祉課等）、東金市教育委員会、小・中学校、児童相談所等とともにネットワーク化することまでは着手できたが、その支援のあり方を進化・深化させるためには、現在の規模を継続しつつ、子どもたち自身の目指す姿を子供たち自身で創り上げるお手伝いだと考える（ロールモデル）。

また、貧困家庭の子どもというレッテルを貼られず、困り事を少しでも多く抱えている子どもとして地域の中で養育していくことが必要である。さらに、保護者が、生活や日常に希望を見いだすことのできる相談や就労、子どもと向きあえる時間や機会の場の提供等を通じ、負の連鎖から脱却する機会を地域とともに考え、見いだすことのできる支援も不可欠である。

30名程度の小さな拠点であるが、そのノウハウは膨大なものである。当法人の責務は、この実践を身近な生活圏域にこだわって生活困窮の家庭もそうではない家庭も、一人ひとりの子どもや家庭が希望を見いだせる機会を地域で提供していくことが、共生型サービスに取り組む者としても役割だと考える。

参考資料

1Day ボランティア 募集



子ども達に自分の“知識”や“技術”を伝えたい人
子ども達と一緒に学びたいと思っている人
子ども達に“ご飯”や“おやつ”をつくってあげたいと思っている人
子どもに関わる活動をしたいと考えている人
子ども達に「教える」とはどういうことか?を学びたいと思っている人
子どもに関わる仕事をしたいと思っている人
子ども一人ひとりに寄り添いたい!と思っている人
未来をつくる子ども達のために何かしたいと思っている!あなた・・・

あなたの“思い”と“時間”と“力”を少しだけ、
地域の子ども達のために活かしてみませんか?

- 活動日 月曜日・水曜日・木曜日・土曜日
- 活動時間 平常時 15:00～19:00
土曜日・祝日 14:00～18:00
長期休業(夏休み・冬休み等) ※変更になります。
- 活動内容 小学生・中学生への学習支援、学習の見守り・サポート、
社会体験のサポート、食事づくり、話相手など。
- 活動条件 毎月1回、2時間程度

お問い合わせ先

学び舎 ゆーすぽーと
TEL.0475-86-6543



独立行政法人福祉政策推進 社会福祉施設助成事業

学び舎
ゆーすぽーと



きり株Cof'e●

●京葉銀行

●ココス

●ジョナサン

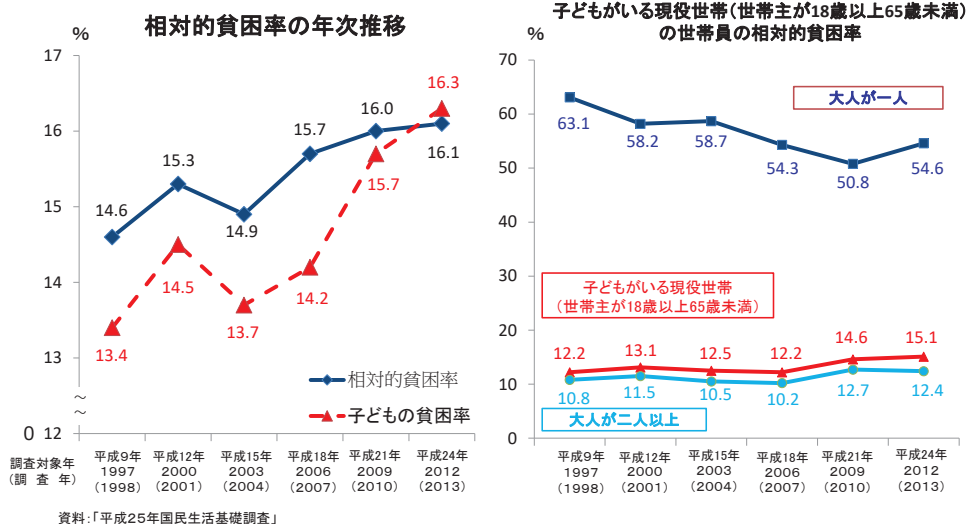
GS●

子どもを取り巻く問題・課題 ～私たちにできることを考える～

平成30年11月21日
松戸市総合政策部 胡内敦司

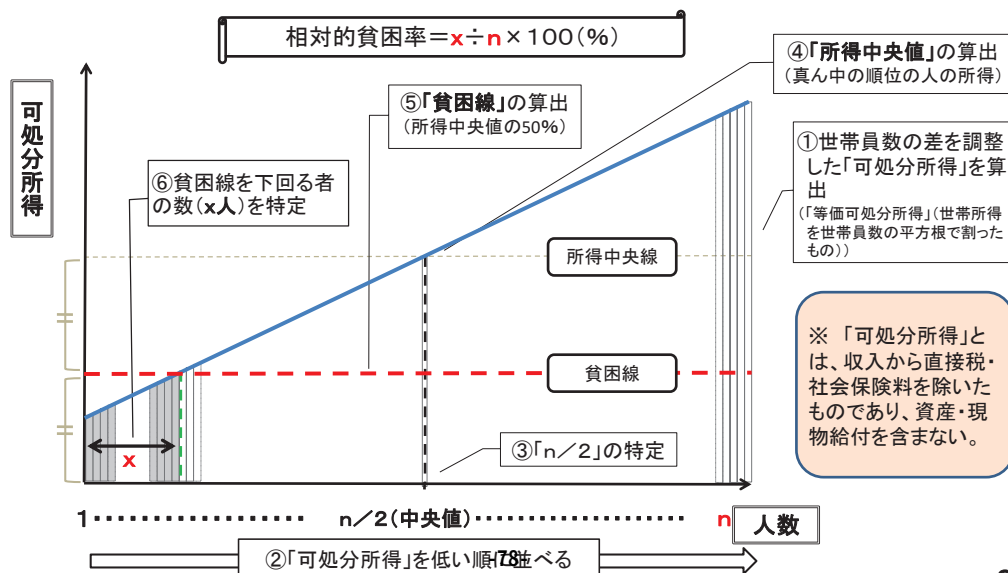
相対的貧困率の推移について

- 最新(2013年調査)の相対的貧困率は、全体で16.1%、子どもで16.3%
- 一方、大人が一人の「子どもがいる現役世帯」で54.6%



1

「相対的貧困率」・・・所得中央値の一定割合(50%が一般的。いわゆる「貧困線」)を下回る所得しか得ていない者の割合。



2

子供の貧困率について（国際比較（2010年））														
○ 日本は(厚生労働省「国民生活基礎調査」の数値)、「相対的貧困率」はOECD34カ国中29位、「子どもの貧困率」は34カ国中25位となっている。														
相対的貧困率			子どもの貧困率			子どもがいる世帯の相対的貧困率								
順位	国名	割合	順位	国名	割合	合計			大人が一人			大人が二人以上		
						順位	国名	割合	順位	国名	割合	順位	国名	割合
1	チェコ	5.8	1	デンマーク	3.7	1	デンマーク	3.0	1	デンマーク	9.3	1	ドイツ	2.6
2	デンマーク	6.0	2	フィンランド	3.9	2	フィンランド	3.7	2	フィンランド	11.4	1	デンマーク	2.6
3	アイスランド	6.4	3	ノルウェー	5.1	3	ノルウェー	4.4	3	ノルウェー	14.7	3	デンマーク	2.8
4	ハンガリー	6.8	4	アイスランド	7.1	4	アイスランド	6.3	4	スロヴァキア	15.9	4	フィンランド	3.0
5	ルクセンブルク	7.2	5	オーストリア	8.2	5	オーストリア	6.7	5	イギリス	16.9	5	アイスランド	3.4
6	フィンランド	7.3	5	スウェーデン	8.2	6	スウェーデン	6.9	6	スウェーデン	18.6	6	スウェーデン	4.3
7	ノルウェー	7.5	7	チェコ	9.0	7	ドイツ	7.1	7	アイルランド	19.5	7	オーストリア	5.4
7	オランダ	7.5	8	ドイツ	9.1	8	チェコ	7.6	8	フランス	25.3	7	オランダ	5.4
9	スロヴァキア	7.8	9	スロベニア	9.4	9	オランダ	7.9	8	ポーランド	25.3	9	フランス	5.6
10	フランス	7.9	9	ハンガリー	9.4	10	スロベニア	8.2	10	オーストリア	25.7	10	チェコ	6.0
11	オーストリア	8.1	9	韓国	9.4	11	フランス	8.7	11	アイスランド	27.1	11	スロベニア	6.7
12	ドイツ	8.8	12	イギリス	9.8	11	スイス	8.7	12	ギリシャ	27.3	12	スイス	7.2
13	アイルランド	9.0	12	スイス	9.8	13	ハンガリー	9.0	13	ニュージーランド	28.8	13	ハンガリー	7.5
14	スウェーデン	9.1	14	オランダ	9.9	14	イギリス	9.2	14	ポルトガル	30.9	13	ベルギー	7.5
15	スロベニア	9.2	15	アイルランド	10.2	15	アイルランド	9.7	15	メキシコ	31.3	15	ニュージーランド	7.9
16	スイス	9.5	16	フランス	11.0	16	ルクセンブルク	9.9	15	オランダ	31.3	15	ルクセンブルク	7.9
17	ベルギー	9.7	17	ルクセンブルク	11.4	17	ニュージーランド	10.4	17	スイス	31.6	15	イギリス	7.9
18	イギリス	9.9	18	スロヴァキア	12.1	18	ベルギー	10.5	18	エストニア	31.9	18	アイルランド	8.3
19	ニュージーランド	10.3	19	エストニア	12.4	19	スロヴァキア	10.9	19	ハンガリー	32.7	19	オーストラリア	8.6
20	ポーランド	11.0	20	ベルギー	12.8	20	エストニア	11.4	20	チェコ	33.2	20	カナダ	9.3
21	ポルトガル	11.4	21	ニュージーランド	13.3	21	カナダ	11.9	21	スロベニア	33.4	21	エストニア	9.7
22	エストニア	11.7	22	ポーランド	13.6	22	ポーランド	12.1	22	ドイツ	34.0	22	スロヴァキア	10.7
23	カナダ	11.9	23	カナダ	14.0	23	オーストラリア	12.5	23	ベルギー	34.3	23	ポーランド	11.8
24	イタリア	13.0	24	オーストラリア	15.1	24	ポルトガル	14.2	24	イタリア	35.2	24	日本	12.7
25	ギリシャ	14.3	25	日本	15.7	25	日本	14.6	25	トルコ	38.2	25	ポルトガル	13.1
26	オーストラリア	14.5	26	ポルトガル	16.2	26	ギリシャ	15.8	26	スペイン	38.8	26	アメリカ	15.2
27	韓国	14.9	27	ギリシャ	17.7	27	イタリア	16.6	27	カナダ	39.8	26	ギリシャ	15.2
28	スペイン	15.4	28	イタリア	17.8	28	アメリカ	18.6	28	ルクセンブルク	44.2	28	イタリア	15.4
29	日本	16.0	29	スペイン	20.5	29	スペイン	18.9	29	オーストラリア	44.9	29	チリ	17.9
30	アメリカ	17.4	30	アメリカ	21.2	30	チリ	20.5	30	アメリカ	45.0	30	スペイン	18.2
31	チリ	18.0	31	チリ	23.9	31	メキシコ	21.5	31	イスラエル	47.7	31	メキシコ	21.0
32	トルコ	19.3	32	メキシコ	24.5	32	トルコ	22.9	32	チリ	49.0	32	トルコ	22.6
33	メキシコ	20.4	33	トルコ	27.5	33	イスラエル	24.3	33	日本	50.8	33	イスラエル	23.3
34	イスラエル	20.9	34	イスラエル	28.5	—	韓国	—	—	韓国	—	—	韓国	—
	OECD平均	11.3		OECD平均	13.3		OECD平均	11.6		OECD平均	31.0		OECD平均	9.9
出典：OECD（2014）Family database“Child poverty”、ハンガリー、アイルランド、日本、ニュージーランド、スイス、トルコの数値は2009年、チリの数値は2011年														

3

相対的貧困率の年次推移

- 相対的貧困率とは、等価可処分所得（1人当たりの可処分所得）の中央値の半分を下回る者の割合
- 子どもの貧困率とは、17歳以下の子ども全体に対する、等価可処分所得の中央値の半分を下回る子どもの割合

⇒ 今回の調査結果では、相対的貧困率や子どもの貧困率はいずれも改善

	昭和 60年	63	平成 3年	6	9	12	15	18	21	24	27
(単位：%)											
相対的貧困率	12.0	13.2	13.5	13.8	14.6	15.3	14.9	15.7	16.0	16.1	15.6
子どもの貧困率	10.9	12.9	12.8	12.2	13.4	14.4	13.7	14.2	15.7	16.3	13.9
子どもがいる現役世帯	10.3	11.9	11.7	11.3	12.2	13.0	12.5	12.2	14.6	15.1	12.9
大人が一人	54.5	51.4	50.1	53.5	63.1	58.2	58.7	54.3	50.8	54.6	50.8
大人が二人以上	9.6	11.1	10.8	10.2	10.8	11.5	10.5	10.2	12.7	12.4	10.7
(単位：万円)											
中央値 (a)	216	227	270	289	297	274	260	254	250	244	245
貧困線 (a/2)	108	114	135	144	149	137	130	127	125	122	122

注：1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。
2) 平成27年の数値は、熊本県を除いたものである。
3) 貧困率は、OECDの作成基準に基づいて算出している。
4) 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
5) 等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。

いずれも改善

4

母子家庭・父子家庭の現状

	母子世帯	父子世帯
1 世帯数(推計値)	123.8万世帯	22.3万世帯
2 ひとり親世帯になった理由	離婚 80.8% 死別 7.5%	離婚 74.3% 死別 16.8%
3 就業状況	80.6%	91.3%
就業者のうち 正規の職員・従業員	39.4%	67.2%
うち 自営業	2.6%	15.6%
うち パート・アルバイト等	47.4%	8.0%
4 平均年間就労収入(母又は父自身の就労収入) ※ 括弧内はパート・アルバイト等の場合	181万円 (125万円)	360万円 (175万円)
5 平均年間収入(母又は父自身の収入)	223万円	380万円
6 平均年間収入(同居親族を含む世帯全員の収入)	291万円	455万円

(出典)平成23年度全国母子世帯等調査
※ 上記は、母子又は父子以外の同居者がいる世帯を含めた全体の母子世帯、父子世帯の数。
過去25年間で、母子世帯は1.5倍、父子世帯は1.3倍。
※ 母子のみにより構成される母子世帯数は約76万世帯、父子のみにより構成される父子世帯数は約9万世帯。(平成22年国勢調査)
※ 「平均年間収入」及び「平均年間就労収入」は、平成22年の1年間の収入。

-79-

5

経済的に困窮した家庭の実態

- 生活保護世帯の子供の朝食では、平日で9割以上、休日で8割以上が、主食・主菜・副菜がそろってない。
夕食では、平日で4割以上、休日で5割以上が、主食・主菜・副菜がそろってない。

～Aくん(小学5年生)のある日の食事～

	平日	休日
朝食	コーラ トースト	水 トースト
昼食	(給食) ごふきいも サラダ 牛乳 きびなご フライ ぶどうパン 卵とトマトのスープ	コーラ おにぎり ホットケーキ
夕食	焼きそば	コーラ チャーハン
主食・主菜・副菜 がそろった食事	1回(給食のみ)	0回

出典: 平成23～26年度科学研究費補助金「現代日本において家庭の経済状況は子どもの食生活と栄養状態に影響するか」
(新潟県立大 村山伸子教授)等による調査結果

6

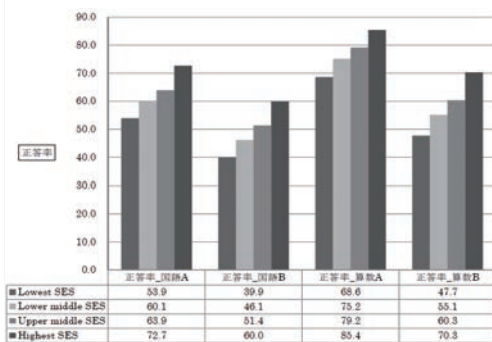
家庭の経済事情が学力に与える影響

- 所得をはじめとした家庭の社会経済的背景と学力には明らかな相関関係がみられる。

●家庭の社会経済的背景(SES)と各正答率

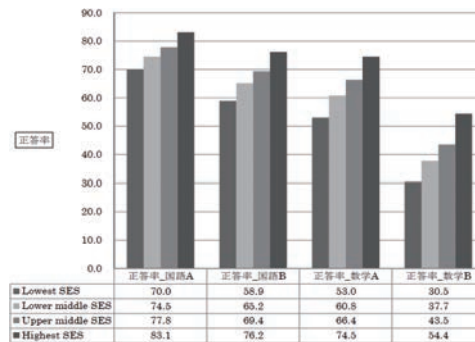
(※家庭の社会経済的背景 SES(Socio-Economic Status)は、家庭の所得、父親学歴、母親学歴の合成尺度)

【小6】



注: 各グループは社会経済的背景の高い順に並べ、4分割したものである。
最上位1/4をHighest SES(最も高いグループ)、2番目の1/4をUpper middle SES(2番目に高いグループ)、3番目の1/4をLower middle SES(3番目に高いグループ)、4番目の1/4をLowest SES(最も低いグループ)としている。

【中3】



(A問題: 主として「知識」を問う問題。身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など)
(B問題: 主として「活用」を問う問題。知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など)

出典: 平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究
国立大学法人お茶の水女子大学(平成26年3月28日)

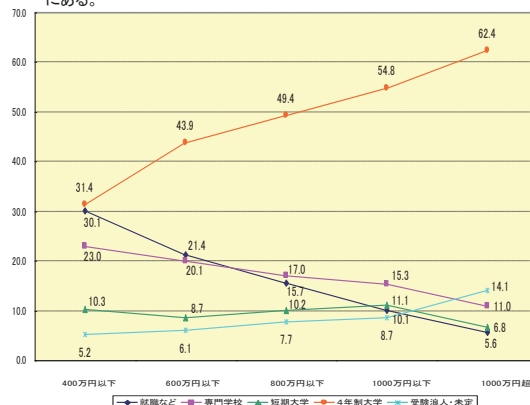
7

家庭の経済事情が進路に与える影響

- 両親の収入や世帯タイプ等の経済事情によって、進路や進学率に差が生じている。

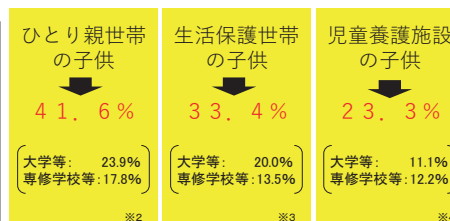
●高校卒業後の予定進路(両親年収別)

両親の年収が高くなるほど、4年制大学に進学する割合が増加する傾向にある。



※1 日本全国から無作為に選ばれた高校3年生4,000人とその保護者4,000人が調査対象。
※2 両親年収は、父母それぞれの税込年収に中央値を割り当て(例:「500～700万円未満」なら600万円)、合計したもの。
※3 無回答を除く。「就職など」には就職進学、アルバイト、海外の大学・学校、家事手伝い、家事手伝い、主婦、その他を含む。専門学校には各種学校を含む。

●世帯タイプによる大学等進学率の差



全世帯の子供の現役大学等進学率

73.2%

[大学等: 51.8%、専修学校等: 21.4%]

※1 平成27年度学校基本調査を元に算出。
※2 平成23年度全国母子世帯等調査(特別集計)
※3 厚生労働省社会・援護局保護課調べ(平成27年4月1日現在)
※4 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課調べ(平成27年5月1日現在)

-80-

出典: 東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」
(2007年9月)

8

子供の貧困の社会的損失推計

- 子供の貧困対策を行わず現状のまま放置した場合、1学年当たり約2.9兆円の経済損失が発生し、政府の財政負担は約1.1兆円増加するとの推計結果もある。
(「子どもの貧困の社会的損失推計レポート(2015年12月)」(日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング)より)

概要

貧困世帯の子供達の高校や大学への進学率及び高校中退率をそのまま放置した場合と、改善させた場合とを比較し、「生涯所得」及び「税・社会保障の純負担(政府等にとっては税及び保険料による収入)」における、それぞれの差を社会的損失として表した推計結果。

「子どもの貧困」に関する経済的影響を推計
～経済的損失約2.9兆円、財政負担約1.1兆円増の可能性も～



注: 本推計における「貧困世帯の子供」とは、15歳の子供(約120万人)のうち、生活保護世帯(約22,300人)、児童養護施設等(約2,500人)、ひとり親家庭(約15.5万人)の計約18万人のこと。

●社会的損失の推計結果

現状シナリオ

→ 貧困世帯の子供に対して何も行わなかった場合

所得

22.6兆円

税・社会保障の純負担

5.7兆円

○ 現在15歳の子供が19歳から64歳までに得る「所得」及び「税・社会保障の純負担」(政府等にとっては税及び保険料による収入)の合計額をそれぞれ算出し比較。

改善シナリオ

→ 子供の貧困対策を行い、子供の進学率及び高校中退率が改善した場合

25.5兆円

6.8兆円

○ 比較結果によると、子供の貧困対策を行わず現状のまま放置した場合、経済的損失約2.9兆円、財政負担約1.1兆円増の可能性がある。

差分

-2.9兆円

-1.1兆円

出典: 日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング 子どもの貧困の社会的損失推計レポート(2015年12月)

9

政府における子どもの貧困対策

平成25年

6月26日 子どもの貧困対策の推進に関する法律 公布
(全会一致で可決成立)

平成26年

1月17日 子どもの貧困対策の推進に関する法律 施行

8月29日 子供の貧困対策に関する大綱 閣議決定

平成27年

4月2日 子供の未来応援国民運動 発起人集会

- 子供の未来応援国民運動趣意書を採択
- 総理から、ひとり親家庭の自立支援等のため、施策の充実について、夏を目途にその方向性を取りまとめ、年末を目途に財源確保を含めた政策パッケージを策定するよう指示

10月1日 子供の未来応援国民運動 始動

- ホームページ(支援情報ポータルサイト、マッチングサイト等)の開設、基金への募金受入れ開始

11月26日 「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策－成長と分配の好循環の形成に向けて－」をとりまとめ

12月21日 子供の貧困対策会議(「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」を決定)

10

子どもの貧困対策の推進に関する法律について

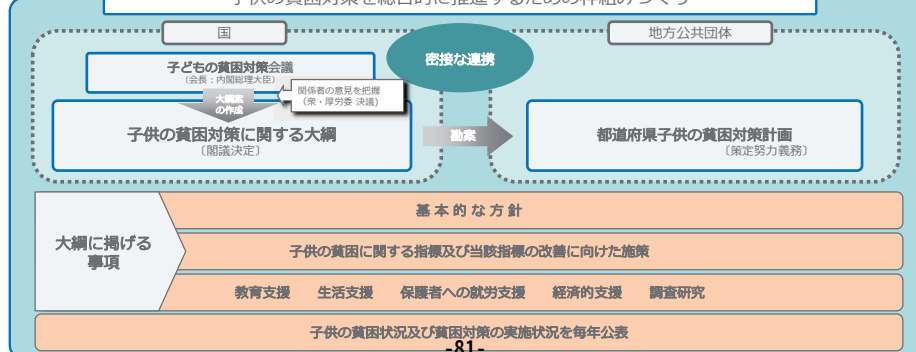
(平成25年法律第64号)
(平成26年1月17日施行)

目的・基本理念

この法律は、**貧困の状況にある子供が健やかに育成される環境を整備**するとともに、**教育の機会均等**を図るため、**子供の貧困対策を総合的に推進**することを目的とする。

- 子供の貧困対策は、**子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会を実現**することを旨として推進されなければならない。
- 子供の貧困対策は、**国及び地方公共団体の関係機関相互の密接な連携**の下に、**総合的な取組**として行われなければならない。

子供の貧困対策を総合的に推進するための枠組みづくり



11

子供の未来応援国民運動の始動（平成27年10月1日）

子供の未来応援事務局
（内閣府、文部科学省、厚生労働省及び日本財団）

子供の未来応援国民運動 ホームページの開設

- ①支援情報ポータルサイト 情報を知る
国、都道府県、市町村等の支援情報が検索できる
支援情報ポータルサイト
- ②マッチングサイト 連携を促す
企業等による支援と、NPO等の支援ニーズを
つなぐマッチングサイト

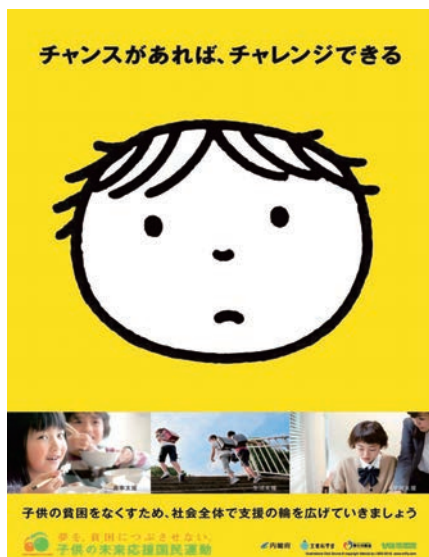
子供の未来応援基金の創設

- ①未来応援ネットワーク事業
草の根で支援を行うNPO等に対して支援を実施
- ②子供の生きる力を育むモデル拠点事業
子供たちの居場所となる拠点を整備し、
「生きる力」を育むプログラムを提供

国、自治体、民間の企業・団体等による応援ネットワークの形成
官公民の連携・協働により、すべての子供たちが未来に夢と希望を抱き、
安心して暮らせる社会へ

12

ディック・ブルーナさんのイラストを活用したチラシ

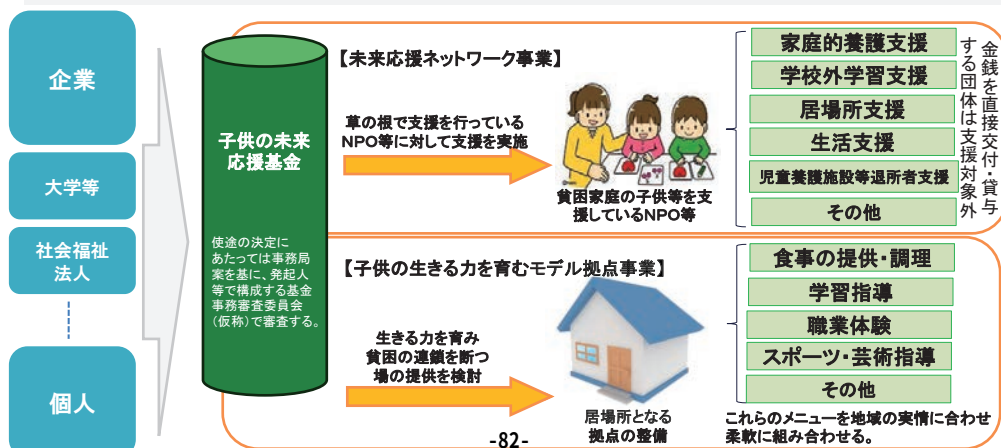


13

民間資金による「子供の未来応援基金」の創設

概要

子供の貧困の放置は、子供たちの将来が閉ざされてしまうだけでなく、社会的損失につながるの考えを前提に、子供の貧困対策を「慈善事業」ととどまらず、「未来への投資」と位置づけ、寄付金をはじめとする企業や個人等からの提供リソースを「子供の未来応援基金」として結集し、「未来応援ネットワーク」事業等を実施する。



14

「すくすくサポート・プロジェクト」

(すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト)^(注) (平成27年12月21日「子どもの貧困対策会議」決定)

- 経済的に厳しい状況に置かれたひとり親家庭や多子世帯が増加傾向にあり、自立支援の充実が課題。
- 児童虐待の相談対応件数は増加の一途。複雑・困難なケースも増加。

8月28日 ひとり親家庭・多子世帯等自立支援策及び児童虐待防止対策の「施策の方向性」をとりまとめ
→年末を目途に財源確保も含めた政策パッケージを策定

すくすくサポート・プロジェクト

I ひとり親家庭・多子世帯等自立支援プロジェクト

- 就業による自立に向けた支援を基本にしつつ、子育て・生活支援、学習支援などの総合的な取組を充実

- 具体的には、ひとり親家庭が孤立せず支援につながる仕組みを整えつつ、生活、学び、仕事、住まいを支援するとともに、ひとり親家庭を社会全体で応援する仕組みを構築

【主な内容】

- ◇自治体の窓口のワンストップ化の推進
- ◇子どもの居場所づくりや学習支援の充実
- ◇親の資格取得の支援の充実
- ◇児童扶養手当の機能の充実 など

II 児童虐待防止対策強化プロジェクト

- 児童虐待について、発生予防から発生時の迅速・的確な対応、自立支援まで、一連の対策を更に強化。

【主な内容】

- ◇子育て世代包括支援センターの全国展開
- ◇児童相談所体制強化プラン（仮称）の策定
- ◇里親委託等の家庭的養護の推進
- ◇退所児童等のアフターケア など

施策を着実に実施するとともに、平成28年通常国会に児童扶養手当法改正案及び児童福祉法等改正法案の提出を目指す。

※施策の実施に当たっては、官・民のパートナーシップを構築し民間の創意工夫を積極的に活用。

※行政が未だ実施していない事業を民間投資によって行い、行政がその成果に対する対価を支払うといった手法等の先駆的な取組も幅広く参考。

(注)「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」の愛称を「すくすくサポート・プロジェクト」と決定（平成28年2月23日）

15

I ひとり親家庭・多子世帯等自立支援プロジェクト（全体像）

支援につながる

- 自治体窓口ワンストップ化の推進
- ワンストップ相談体制整備
- 窓口の愛称・ロゴマークの設定
- 相談窓口への誘導強化
- 携帯メールによる双方型支援
- 集中相談体制の整備 等

生活を応援

- 1 子どもの居場所づくり
- 放課後児童クラブ等の終了後に生活習慣の習得・学習支援等を行う居場所づくりの実施
- 2 児童扶養手当の機能の充実
- 第2子・第3子加算額を倍増
- 3 養育費の確保支援
- 地方自治体での弁護士による養育費相談
- 離婚届書等の交付時に養育費の合意書ひな形も同時交付
- 財産開示制度等に係る所要の民事執行法の改正の検討 等
- 4 母子父子寡婦福祉資金貸付金の見直し
- 利率の引き下げ
- 5 保育所等利用における負担軽減
- 年収約360万円未満の世帯の保育料負担軽減

学びを応援

- 1 教育費の負担軽減の推進
- 幼児教育無償化へ向けた取組の段階的推進
- 高校生等奨学給付金事業の充実
- 大学等奨学給付金事業の充実 等
- 2 子供の学習支援の充実
- 高等学校卒業認定試験合格事業の対象追加
- 生活困窮世帯等の子供の学習支援の充実
- 地域未来塾の拡充
- 官民協働学習支援プラットフォームの構築 等
- 3 学校をプラットフォームとした子供やその家族が抱える問題への対応
- S Wの配置拡充
- 訪問型家庭教育支援の推進 等

社会全体で応援

- 1 子供の未来応援国民運動の推進
- 支援情報ポータルサイトの準備 等
- 2 子供の未来応援地域ネットワーク形成支援
- 「地域応援子供の未来応援交付金」創設

仕事を応援

- 1 就職に有利な資格の取得の促進
- 高等職業訓練促進給付金の充実
- 高等職業訓練促進資金貸付事業創設
- 自立支援教育訓練給付金の充実 等
- 2 ひとり親家庭の就労支援
- 出張ハローワークの実施
- マザーズハローワークでの支援
- 企業への助成金の活用・拡充 等
- 3 ひとり親が利用しやすい能力開発施策の推進
- 求職者支援訓練における託児サービス支援付き訓練コース等の創設
- 職業訓練におけるeラーニング
- ジョブ・カードを活用した雇用型訓練の推進 等

住まいを応援

- ひとり親家庭等に対する住居確保支援
- 公的賃貸住宅等における居住の安定の確保
- ひとり親家庭向け賃貸住宅としての空き家の活用促進
- 生活困窮者に対する住居確保給付金の支給
- 新たな生活場所を求めるひとり親家庭等に対する支援 等

16

子ども食堂の活動

- ◆ 子供が一人でも来られる無料または低額の食堂
- ◆ 多様性
⇒ 活動の頻度、場所、参加者など
- ◆ 全国に2,286カ所
(こども食堂安心・安全向上委員会調べ)
- ◆ ①貧困対策と②地域交流の拠点
- ◆ 食事だけでなく、体験なども提供
⇒ 「居場所」
- ◆ 効果 ⇒ 支え合い
- ◆ 地域とのつながり、関係機関との連携
- ◆ 地域の多世代交流拠点(ソフトインフラ)



(出典)「広がれ、こども食堂の輪!」全国ツアー公式パンフレット

17

子どもの居場所とパーソナルサポート事業 報告会

2019年 **3/6** 水 13:20～15:30

場所: 東金文化会館2階 会議室2
 (東金市八坂台1丁目2107番地3)



講師

湯浅 誠 (ゆあさ・まこと) 氏
 (社会活動家／法政大学教授)

1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。
 1995年よりホームレス支援、生活困窮者支援に携わる。
 2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。
 内閣官房社会的包摂推進室長、災害ボランティア連携室長など。
 政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、
 日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。

現在、法政大学現代福祉学部教授の他、NHK第一ラジオ「マイあさラジオ」、
 文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」レギュラーコメンテーター、
 朝日新聞パブリックエディター、日本弁護士連合会市民会議委員。

講演内容は貧困問題にとどまらず、地域活性化や男女共同参画、
 人権問題などに渡る。

プログラム

● 基調講演

「貧困・虐待・孤立から
 子どもを守るために
 ……私たちができること(仮題)」

● 「学び舎・ゆーすぽーと」の活動報告

● 質疑応答

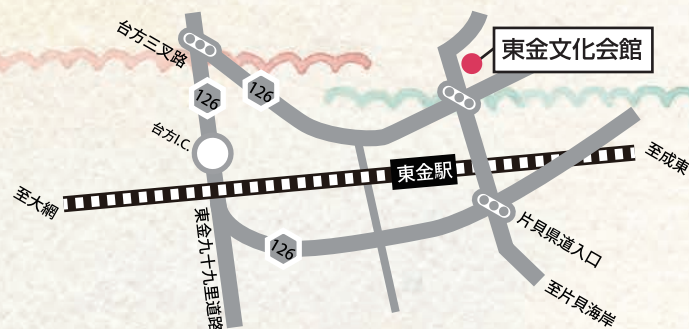
- 対象者 東金市内の福祉・介護関係者、事業者、商工関係者等、生活困窮者支援に関心のある市民
- 定 員 100人
- 参加費 無料(※事前申込要)

参加申込書

参加者氏名 ①		所属	
参加者氏名 ②		所属	

● 主催 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎 〒283-0802 東金市東金425-2 Tel:0475-53-3630

● 後援 社会福祉法人東金市社会福祉協議会(依頼中)

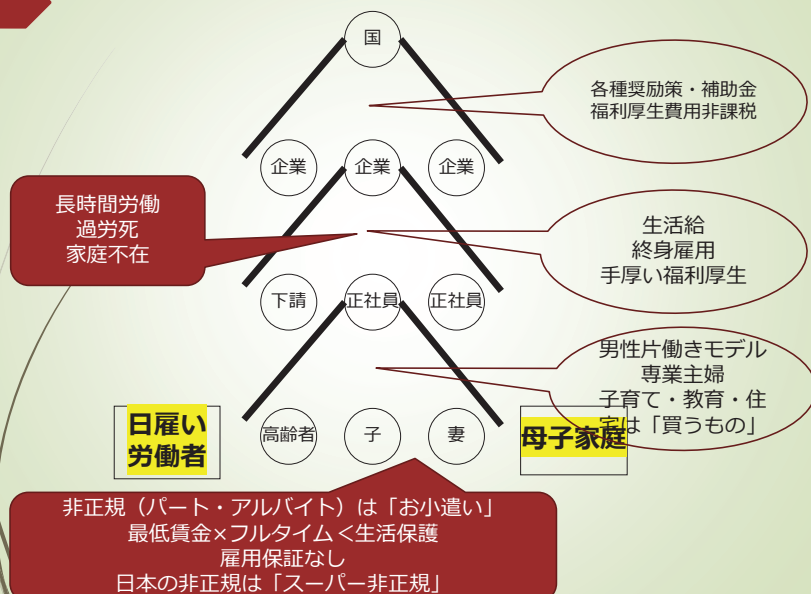


FAX.0475-53-3631

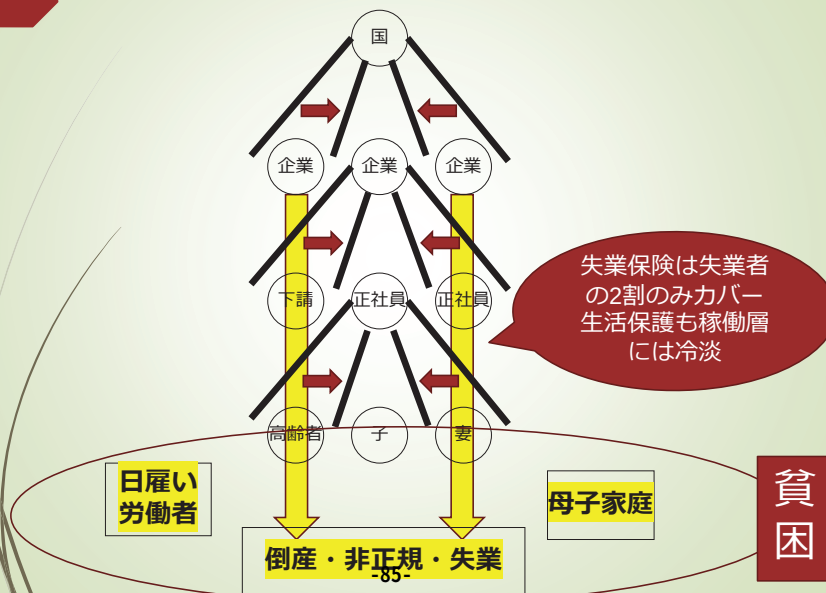
貧困問題の “これまで”と“これから”

湯浅 誠（社会活動家／法政大学教授）

1960年代～ 日本型「雇用による包摂モデル」＝三重の傘



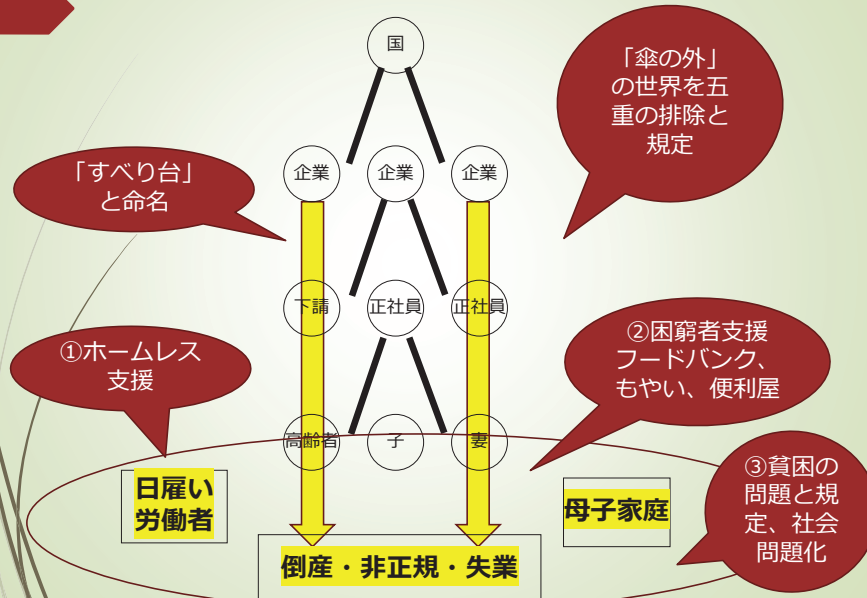
1990年代～ 傘がしぼむと、雨に濡れる人が増える



1990年代～ 風船がしぼみ、箱の底に落ちる



私がやってきたこと



ホームレス支援（1995～2002年）



→ 2000年～社会問題化
「炭鉱のカナリア」
2002年ホームレス自立支援法

フードバンク（2000～2009年）



- 2010年前後より日本各地に広まる
現在、全国に約80か所開設
国税庁が損金算入認める

もやい（保証人提供）（2001～2009年）



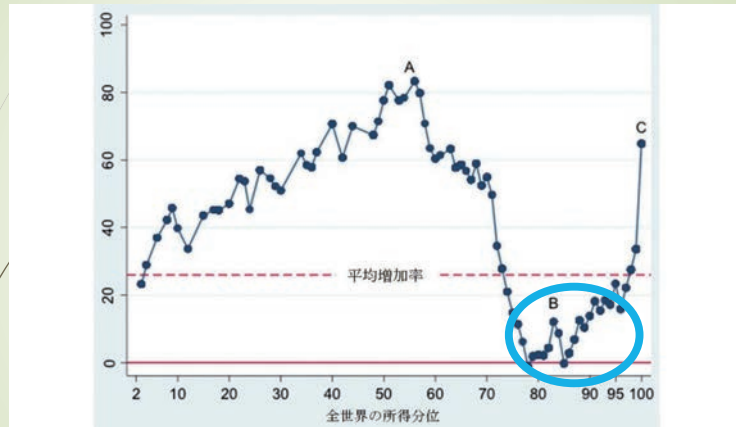
- 2000年代後半より、アパートの債務保証会社が一般化
2017年住宅セーフティネット改正法

便利屋あうん（2003～2008年）



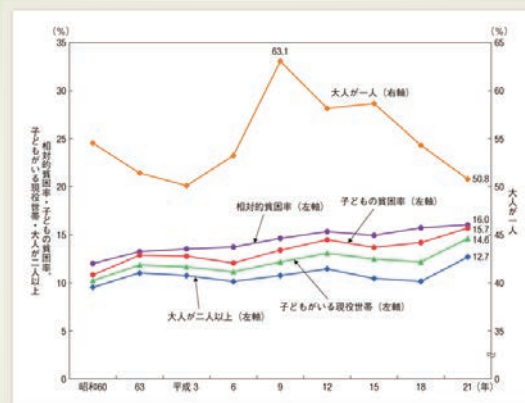
- 2010年ごろより「遺品整理」業者などが一般化
2010年N87へ「無縁社会」

30年たって振り返ってみると



出所： Milanovic, Branko (2016)
https://tax.tkfd.or.jp/?post_type=article&p=136

2009年10月20日 日本に貧困が「あったことになった」日



出典：厚生労働省調べ
 注：1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2) 貧困率は、OECDの作成基準に基づいて算出している。
 3) 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
 4) 等価可処分所得全額不詳の世帯員は除く。

内閣府
https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2012/24webhonpen/html/b2_s2_5_4.html

「ある」となれば対処するしかないのが「貧困」

社会的

若者の貧困／女性の貧困／高齢者の貧困（「下流老人」）
 奨学金問題／子どもの貧困...

→持続可能性への注目（第三次ベビーブームの消滅、進学格差等による成長の鈍化）

政治的

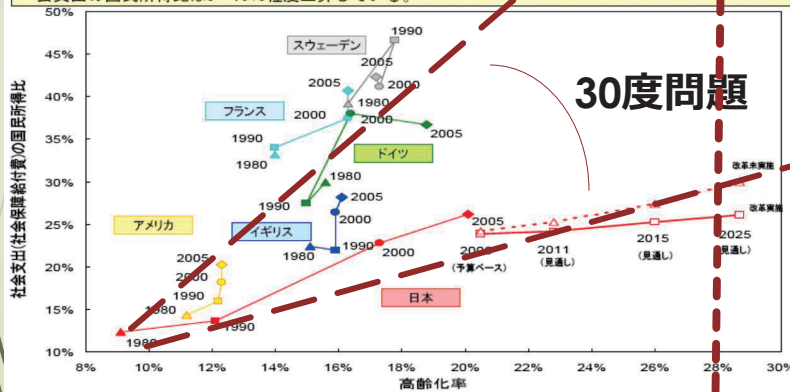
2013：子どもの貧困対策の推進に関する法律
 2013：生活困窮者自立支援法
 2014：新・三本の矢
 2018：高等教育無償化
 2019：保育・幼児教育無償化

30度問題

GNI比70%

高齢化率と社会保障の給付規模の国際比較

- 日本は1980年から2005年までの25年間で高齢化率は10%以上上昇しているが、社会支出の国民所得比の増加は約13%程度であり、その水準もスウェーデン・フランスなどに比べ、低い。
- イギリスやアメリカ、ドイツなどは、高齢化率はさほど大きく変わらないものの、その社会支出の国民所得比は5~10%程度上昇している。



出典: 実績はOECD: "Social Expenditure Database 2008"等、見直しは厚生労働省「社会保障の給付と負担の見直し(平成18年5月)」に基づき、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室で算出したもの。
実績はOECD社会支出基準に基づく社会支出データを用いているため、社会保障給付費よりも広い範囲の費用(公的住宅費用、施設整備費等)も計上されている。
高齢化率は・日本: 国勢調査(総務省統計局) / 諸外国(U.N.WORLD POPULATION PROSPECTS(OECD Health Data))

こども食堂



子どもが一人でも行ける無料
または低額の食堂

地域交流
拠点

子どもの
貧困対策

にぎわいを創りたい。そこから
はじかれる子どもをつくっては
ならない。



順位	都道府県名	小学校数 2018年 現在*	こども 食堂数 2018年3 月時点	充足率 (%)			
1	沖縄県(おきなわ)	271	127	46.9	26	兵庫県(ひょうご)	764 53 6.937
2	滋賀県(しが)	223	95	42.6	27	三重県(みえ)	375 26 6.933
3	東京都(とうきょう)	1,332	335	25.2	28	愛知県(あいち)	976 66 6.8
4	京都府(きょうと)	385	94	24.4	29	佐賀県(さが)	164 11 6.7
5	高知県(こうち)	233	51	21.9	30	山梨県(やまなし)	181 12 6.6
6	大阪府(おおさか)	1,004	219	21.8	31	岡山県(おかやま)	392 25 6.4
7	鳥取県(とっとり)	125	27	21.6	32	栃木県(とちぎ)	363 23 6.3
8	神奈川県(かながわ)	888	169	19	33	新潟県(にいがた)	465 28 6
9	長野県(ながの)	370	68	18.4	34	岐阜県(ぎふ)	371 22 5.9
10	奈良県(なら)	207	34	16.4	35	秋田県(あきた)	199 11 5.5
11	福岡県(ふくおか)	741	90	12.1	36	岩手県(いわて)	316 17 5.37
12	宮城県(みやぎ)	385	44	11.4	37	広島県(ひろしま)	485 26 5.36
13	大分県(おおいた)	272	30	11	38	鹿児島県(かごしま)	517 24 4.64
14	北海道(ほっかいどう)	1,045	113	10.8	39	愛媛県(えひめ)	284 13 4.58
15	埼玉県(さいたま)	817	83	10.2	40	山口県(やまぐち)	310 14 4.51
16	石川県(いしかわ)	208	20	9.6	41	富山県(とやま)	190 8 4.2
17	島根県(しまね)	203	19	9.4	42	茨城県(いばらき)	488 19 3.9
18	香川県(かがわ)	165	15	9.1	43	徳島県(とくしま)	192 7 3.6
19	熊本県(くまもと)	349	31	8.9	44	山形県(やまがた)	252 8 3.2
20	群馬県(ぐんま)	312	26	8.3	45	福島県(ふくしま)	448 13 2.9
21	静岡県(しずおか)	508	40	7.9	46	青森県(あおもり)	287 8 2.8
22	和歌山県(わかやま)	255	20	7.8	47	長崎県(ながさき)	330 7 2.1
23	千葉県(ちば)	803	62	7.7			
24	福井県(ふくい)	200	15	7.5			
25	宮崎県(みやざき)	242	18	7.4			

こども食堂の淵源

リーマンショック（2008年）

→ Inclusive Growth
SDGs

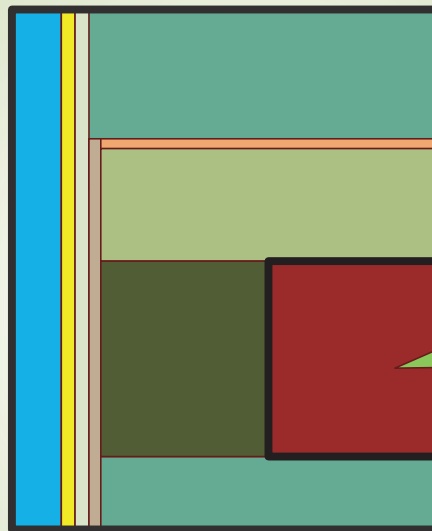
持続可能な発展は「誰一人取り残されない」世界から

= 地域交流の「にぎわい」からはじかれる子どもをつくってはならない

東日本大震災（2011年）

→ ふつうはもろい
人とともにある価値の高まり
体験・共有への注目

= ふれあい（接点）を地域に創りたい



若くて
健康な
日本人
男性

2008年「全員参加型社会」
2009年「居場所と出番」
2014年「一億総活躍」

これから必要なこと



（活動）地域インフラへ

- ・ こども食堂の充足率100%の達成
- ・ 質の確保と「自発性と多様性の尊重」の両立
- ・ 地域ネットワーク（中間支援団体）の組織化
- ・ 企業・団体協働の促進
- ・ 家庭（親）の貧困に異なる光を当てる

（研究）持続可能な地域づくり

- ・ 自治体連携（明石市・埼玉県・高知県...）と競争の促進
- ・ 新しい公金の流し方の開発
- ・ 医療・介護費用削減効果のエビデンス
- ・ 地域診断リストの開発

→ SDGsに呼応する地域・社会のバージョンアップ



人と人がふれあう

やさしくて、あったかい

にぎわいを

地域に創る

→地域交流の促進

そのときに

お金やつながりなく、

にぎわいからはじかれる

子どもを作ってはならない

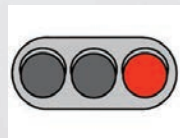
→子どもの貧困対策

地域交流
拠点



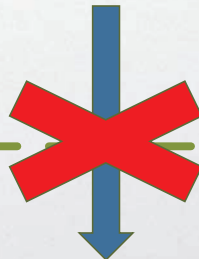
子どもの
貧困対策

順位	都道府県名	小学校数	こども食堂数	充足率(%)	
充足率順		2018年現在*	2018年1～3月時点		
1	神奈川(おきなわ)	271	127	46.9	26 兵庫(ひょうご)
2	滋賀(しがら)	223	95	42.6	27 三重(みえ)
3	東京都(とうきょう)	1,332	335	25.2	28 愛知(あいち)
4	京都府(きょうと)	385	94	24.4	29 佐賀(さが)
5	高知(こうち)	233	51	21.9	30 山梨(やまなし)
6	大阪府(おおさか)	1,004	219	21.8	31 岡山(おかやま)
7	鳥取(とっとり)	125	27	21.6	32 栃木(とちぎ)
8	奈良(なら)	888	169	19	33 新潟(にいがた)
9	長野(ながの)	370	68	18.4	34 岐阜(ぎふ)
10	奈良(なら)	207	34	16.4	35 秋田(あきた)
11	福岡(ふくおか)	741	90	12.1	36 岩手(いわて)
12	宮城(みやぎ)	385	44	11.4	37 広島(ひろしま)
13	大分(おおいち)	272	30	11	38 鹿児島(かごしま)
14	北海道(ほっかいどう)	1,045	113	10.8	39 愛媛(えひめ)
15	埼玉(さいたま)	817	83	10.2	40 山口(やまぐち)
16	石川(いしかわ)	208	20	9.6	41 富山(とやま)
17	根拠(ねこ)	203	19	9.4	42 茨城(いばらき)
18	香川(かがわ)	165	15	9.1	43 徳島(とくしま)
19	熊本(くまもと)	349	31	8.9	44 山形(やまがた)
20	群馬(ぐんま)	312	26	8.3	45 福島(ふくしま)
21	静岡(しずおか)	508	40	7.9	46 青森(あおもり)
22	和歌山(わかやま)	255	20	7.8	47 長崎(ながさき)
23	千葉(ちば)	803	62	7.7	
24	福井(ふくい)	200	15	7.5	
25	宮崎(みやざき)	242	18	7.4	



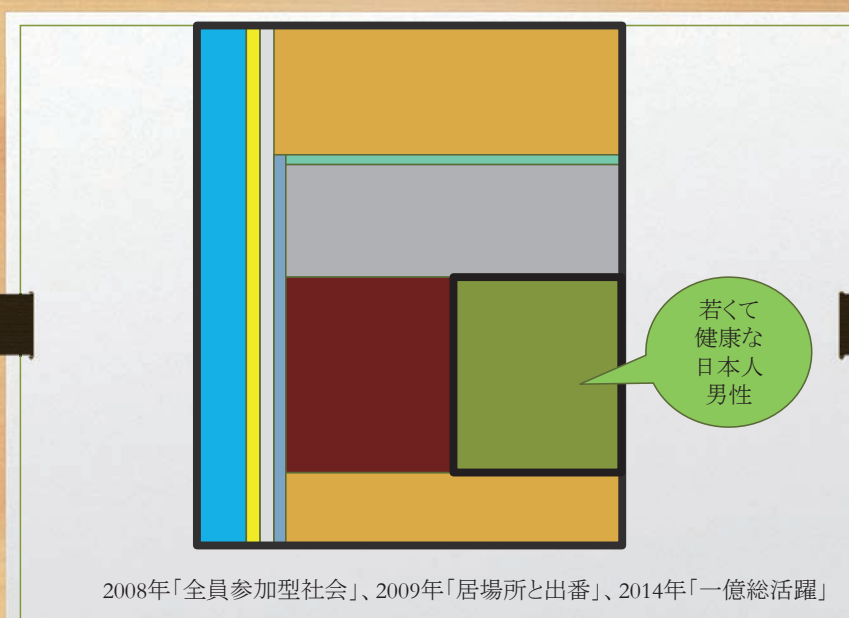
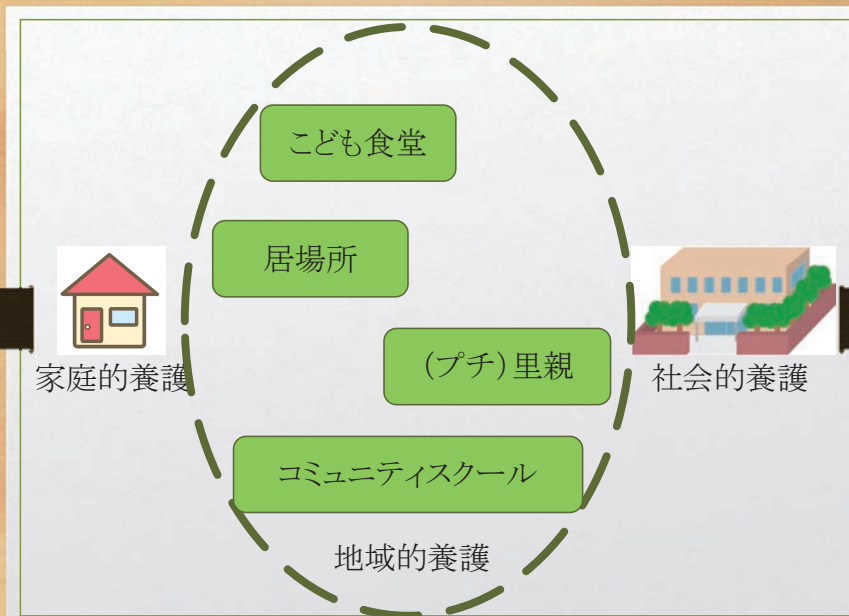
- 予防的
- 面的対応(地域づくり)
- 住民対応
- オープン(インクルーシブ)
- やりくり
- 民間向き

- 事後的
- 個別救済
- 専門家介入
- 個人情報管理
- 手間・ヒマ・カネ
- 行政向き



地域的養護で
いかに
黄信号から赤信号への転落を
予防するか
(こぼれにくい地域づくり)

いかに
地域的養護を促進できるか
それを支える方法・スキル・制度
そして
世論醸成



持続可能な開発は、
誰一人取り残さない
世界の実現によって
可能となる。



地域のにぎわいづくりは、
そこからはじかれる子ど
もを作らないことで、
可能になる。



ビジョン

こども食堂の支援を通じて、誰も取りこぼさない社会をつくる。

ミッション

- ・こども食堂が全国のどこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となる社会を創ります。
- ・こども食堂を通じて、多くの人たちが未来をつくる社会活動に参加できるようにします。

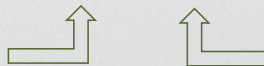
事業

地域ネットワーク支援／企業・団体協働／調査研究



こども食堂地域ネットワーク

吉本興業
住みます芸人



東京おもちゃ美術館
おもちゃコンサルタント



**独立行政法人福祉医療機構・平成30年度社会福祉振興助成事業
「子どもの居場所とパーソナルサポート事業」報告書**

発行日 平成31年3月31日
発行者 特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金4-2-1 番地
Tel:0475-53-3630/Fax:0475-53-3631

※無断コピー及び転載を禁じます。コピー・転載・引用等される際には、必ずご連絡いただきますようお願いいたします。